

令和 2 年 度

# 学 生 生 活 调 查 报 告

独立行政法人日本学生支援機構



# 令和 2 年度 学生生活調査

## まえがき

日本学生支援機構では、学生の標準的な生活状況を把握し、学生生活支援事業の充実を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成 16 年度から隔年で「学生生活調査」を実施しています。本調査は、平成 14 年度までは文部科学省において実施していましたが、平成 16 年 4 月の日本学生支援機構（JASSO）の設立に伴い、文部科学省から業務が移管されました。

令和 2 年度調査については、令和 4 年 3 月に調査結果を取りまとめ公表したところですが、本報告においては、大学昼間部、短期大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成 30 年度）との比較を行いながら調査結果の概要を説明するとともに、過去 10 年間の学生生活費や主な経費等の推移についての資料を掲載しています。

今回の調査は、前回調査と同様に大学学部、短期大学及び大学院の学生（通信課程、休学者及び外国人留学生を除く。）を調査対象とし、標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況、学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として、全国 2,982,972 人から 90,654 人を抽出し、令和 2 年 11 月現在で実施したものです。

調査の方法は、大学・短期大学の別、昼間部・夜間部の別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別、設置者（国公私）の別に抽出率を定め、サンプル数を算出し、各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて（一部区分については全数調査により）調査を依頼しました。回収率は 41.5%、有効回答数は 37,591 人で、本文で紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑で、この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

末筆ながら、本調査に回答いただいた学生の皆様、本調査の実施に際して多大なご協力をいただいた全国の大学及び短期大学の関係者の皆様をはじめ、ご助言ご協力をいただきました関係者の方々に改めて深く感謝申し上げます。

独立行政法人 日本学生支援機構

# 目 次

まえがき

1.	学生生活費	
(1)	年間学生生活費	1
(2)	学生生活費の推移	1
(3)	設置者別の学生生活費	3
(4)	居住形態別の学生数の割合	4
(5)	居住形態別の学生生活費	5
(6)	地域別・居住形態別学生生活費	7
(7)	男女別・居住形態別学生生活費	8
(8)	学年別の学生生活費	10
2.	学生の収入の状況	11
3.	家庭からの給付額等	
(1)	家庭からの給付	14
(2)	家庭の年間平均収入	14
(3)	家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合	15
(4)	家庭の収入階層区分別学生数の割合	16
(5)	主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合	16
4.	アルバイトの従事状況	
(1)	アルバイトの従事状況	17
(2)	アルバイト従事時期別学生数の割合	19
(3)	アルバイト従事職種別学生数の割合	21
5.	奨学金の受給希望及び受給状況	
(1)	学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況	22
(2)	家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況	23
(3)	奨学金の種類別・設置者別受給状況	24
6.	居住形態別・地域別通学時間	25
7.	週間平均生活時間	27
8.	大学の学生支援体制への満足度	30
9.	学生の不安や悩み	31
	(参考)	
	㊤表：居住形態別・設置者別の学生生活費	32

## 令和 2 年度学生生活調査集計表

### I. 大学・短期大学

A-1	居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳	(大学昼間部) . . . . . 34
A-2	//	(大学夜間部) . . . . . 35
A-3	//	(短期大学昼間部) . . . . . 36
A-4	//	(短期大学夜間部) . . . . . 37
B-1	居住形態別・地域別学生生活費の内訳	(大学昼間部) . . . . . 38
B-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 38
C-1	居住形態別・地域別学生数	(大学昼間部) . . . . . 39
C-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 39
D-1	学年別年間学費支出平均額	(大学昼間部) . . . . . 40
D-2	//	(大学夜間部) . . . . . 40
D-3	//	(短期大学昼間部) . . . . . 41
D-4	//	(短期大学夜間部) . . . . . 41
E-1	学科(専攻)系統別学費支出平均額	(大学昼間部) . . . . . 42
E-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 43
F-1	家庭の年間収入別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 44
F-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 45
G-1	世帯区分別・家庭の年間収入別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 46
G-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 47
H-1	家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合	(大学昼間部) . . . . . 48
H-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 48
I-1	家庭からの給付程度別・アルバイト収入使途別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 49
I-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 50
J-1	アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合	(大学昼間部) . . . . . 51
J-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 52
K-1	設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況	(大学昼間部) . . . . . 53
K-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 54
L	設置者別・奨学金の種類別学生数の割合	. . . . . 55
M-1	設置者別・大学の学生支援体制への満足度	(大学昼間部) . . . . . 56
M-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 56
N-1	設置者別・学生の不安や悩み	(大学昼間部) . . . . . 57
N-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 57
O-1	居住形態別・地域別片道通学時間	(大学昼間部) . . . . . 58
O-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 59
P-1	設置者別・週間平均生活時間	(大学昼間部) . . . . . 60
P-2	//	(短期大学昼間部) . . . . . 61

## II. 大学院

A-1	居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳	(修士課程)	64
A-2	〃	(博士課程)	65
A-3	〃	(専門職学位課程)	66
B-1	居住形態別・地域別学生生活費の内訳	(修士課程)	67
B-2	〃	(博士課程)	67
B-3	〃	(専門職学位課程)	68
C-1	居住形態別・地域別学生数	(修士課程)	68
C-2	〃	(博士課程)	69
C-3	〃	(専門職学位課程)	69
D-1	学年別年間学費支出平均額	(修士課程)	70
D-2	〃	(博士課程)	70
D-3	〃	(専門職学位課程)	70
E-1	学科(専攻)系統別学費支出平均額	(修士課程)	71
E-2	〃	(博士課程)	72
E-3	〃	(専門職学位課程)	73
F-1	家庭の年間収入別学生数の割合	(修士課程)	74
F-2	〃	(博士課程)	75
F-3	〃	(専門職学位課程)	76
G-1	世帯区分別・家庭の年間収入別学生数の割合	(修士課程)	77
G-2	〃	(博士課程)	78
G-3	〃	(専門職学位課程)	79
H-1	家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合	(修士課程)	80
H-2	〃	(博士課程)	80
H-3	〃	(専門職学位課程)	81
I-1	家庭からの給付程度別・アルバイト収入用途別学生数の割合	(修士課程)	82
I-2	〃	(博士課程)	83
I-3	〃	(専門職学位課程)	84
J-1	アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合	(修士課程)	85
J-2	〃	(博士課程)	86
J-3	〃	(専門職学位課程)	87
K-1	設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況	(修士課程)	88
K-2	〃	(博士課程)	89
K-3	〃	(専門職学位課程)	90
L	設置者別・奨学金の種類別学生数の割合		91
M-1	設置者別・大学の学生支援体制への満足度	(修士課程)	92
M-2	〃	(博士課程)	92
M-3	〃	(専門職学位課程)	93
N-1	設置者別・学生の不安や悩み	(修士課程)	94

N-2	〃	(博士課程) . . . . .	94
N-3	〃	(専門職学位課程) . . . . .	95
O-1	居住形態別・地域別片道通学時間	(修士課程) . . . . .	96
O-2	〃	(博士課程) . . . . .	97
O-3	〃	(専門職学位課程) . . . . .	98
P-1	設置者別・週間平均生活時間	(修士課程) . . . . .	99
P-2	〃	(博士課程) . . . . .	100
P-3	〃	(専門職学位課程) . . . . .	101

## 参考資料

資料1	：令和2年度学生生活調査実施要領 . . . . .	105
資料2	：調査票様式及び調査票記入要領 . . . . .	112
資料3	：過去10年間の学生生活費－学生生活調査結果から－	
	(1) 大学昼間部・短期大学昼間部 . . . . .	134
	(2) 大学院 . . . . .	143
資料4	：主な経費等の推移の図・グラフ (平成14年度調査以降)	
	(1) 学生生活費及び収入額内訳の推移 . . . . .	152
	(2) 家庭からの給付程度別アルバイト従事状況の推移 . . . . .	157
	(3) 奨学金受給状況の推移 . . . . .	162

## 〔留意事項〕

1. 本調査における学生生活費は学費と生活費を合わせたものである。  
学 費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計  
生活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費(通信費を含む)の合計
2. 本報告の集計各表は端数処理(四捨五入)後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。
3. 本報告の「大学」は、大学学部のことを言う。  
また「修士課程」「博士課程」「専門職学位課程」は、大学院の下記の各課程のことを言う。なお、専門職学位課程については、平成 18 年度より調査対象とした。

修士課程	修士課程、博士前期課程、一貫制博士課程の前期 2 年(医・歯・薬・獣医を除く)
博士課程	博士後期課程、一貫制博士課程の後期 3 年、一貫制博士課程(医・歯・薬・獣医)
専門職学位課程	法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程

4. 大学院については、配偶者を有すると回答した者は、学生生活費が大きく異なるケースが想定されるため、従前の例にならない学生生活費等の集計に含まない。
5. 大学及び短期大学については、平成 26 年度から文部科学省国立教育政策研究所との共同により大学生等の学習状況に関する調査項目を追加した。
6. 質問の一部に回答がない調査票は、一部の集計表では集計対象としていない。
7. 各集計表の脚注に、有効回答数(n)を参考値として表示している。なお、設間によって有効回答数が異なることから、各集計表における n は必ずしも一致しない。
8. 集計各表の数値は、この標本調査の有効回答を基礎として、調査対象学生総数についての推計値を算出した結果である。
9. 表中の記号は次のように使う。  
「 - 」 : 計数が無い場合  
「0.0」 : 計数が単位未満の場合  
「…」 : 計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合
10. 本文中で使用する表(A表、B表…)と集計表(A-1表、B-1表…)のアルファベットは、内容が関連するものではない。



## 1. 学生生活費

### (1) 年間学生生活費（A表）

年間の学生生活費は、次のようになっている。

#### ①大学（昼間部）等

平成30年度調査（以下「前回調査」という。）と比較すると、大学（昼間部）で5.3ポイント減、大学（夜間部）で2.0ポイント減、短期大学（昼間部）で4.4ポイント減、短期大学（夜間部）で8.2ポイント減となっており、どの学校区分も減少している。

#### ②大学院

前回調査と比較すると、修士課程で2.1ポイント減、博士課程で2.0ポイント減、専門職学位課程で5.0ポイント減となっており、どの課程も減少している。

**A表 年間学生生活費**

[単位:円]

区分	大学		短期大学		大学院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程	
学 費	授業料	914,900	478,200	761,400	443,000	612,600	444,700	782,000
	その他の学校納付金	122,000	39,200	176,000	64,100	33,000	19,800	44,800
	修学費	46,800	41,900	53,900	34,600	47,400	105,000	79,600
	課外活動費	20,300	22,300	4,400	5,800	9,400	12,400	11,400
	通学費	44,700	39,400	66,000	36,600	44,500	54,500	42,900
	計	1,148,700	621,000	1,061,700	584,100	746,900	636,400	960,700
生 活 費	食費	160,000	176,100	102,200	128,400	268,200	409,000	298,600
	住居・光熱費	190,900	196,000	94,900	129,300	340,500	447,300	271,700
	保健衛生費	41,200	41,600	42,200	34,600	47,400	81,400	58,100
	娯楽・嗜好費	130,300	133,100	109,500	113,000	147,600	228,600	182,800
	その他の日常費	141,900	202,300	145,400	160,900	200,000	451,600	401,600
	計	664,300	749,100	494,200	566,200	1,003,700	1,617,900	1,212,800
合 計	(△5.3)	(△2.0)	(△4.4)	(△8.2)	(△2.1)	(△2.0)	(△5.0)	
	1,813,000	1,370,100	1,555,900	1,150,300	1,750,600	2,254,300	2,173,500	
参 考	平成30年度	1,913,500	1,398,700	1,627,600	1,252,400	1,788,800	2,299,900	2,287,200
	平成28年度	1,884,200	1,504,900	1,587,300	1,295,200	1,763,500	2,250,700	2,331,600
	平成26年度	1,862,100	1,425,900	1,580,500	1,202,700	1,750,200	2,162,000	2,289,100
	平成24年度	1,880,100	1,377,500	1,651,800	1,157,800	1,735,700	2,120,300	2,194,300

(注) ( )は、平成30年度調査の金額を基準とした増減率である。

### (2) 学生生活費の推移（B表、第1図）

#### ①大学（昼間部）

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は5.0ポイント減、生活費は5.7ポイント減となっている。

#### ②短期大学（昼間部）

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は2.6ポイント減、生活費は8.1ポイント減となっている。

#### ③大学院

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は修士課程で3.8ポイント減、博士課程で5.0ポイント減、専門職学位課程で8.7ポイント減となっており、生活費は修士課程で0.8ポイント減、博士課程で0.8ポイント減、専門職学位課程で1.8ポイント減となっている。

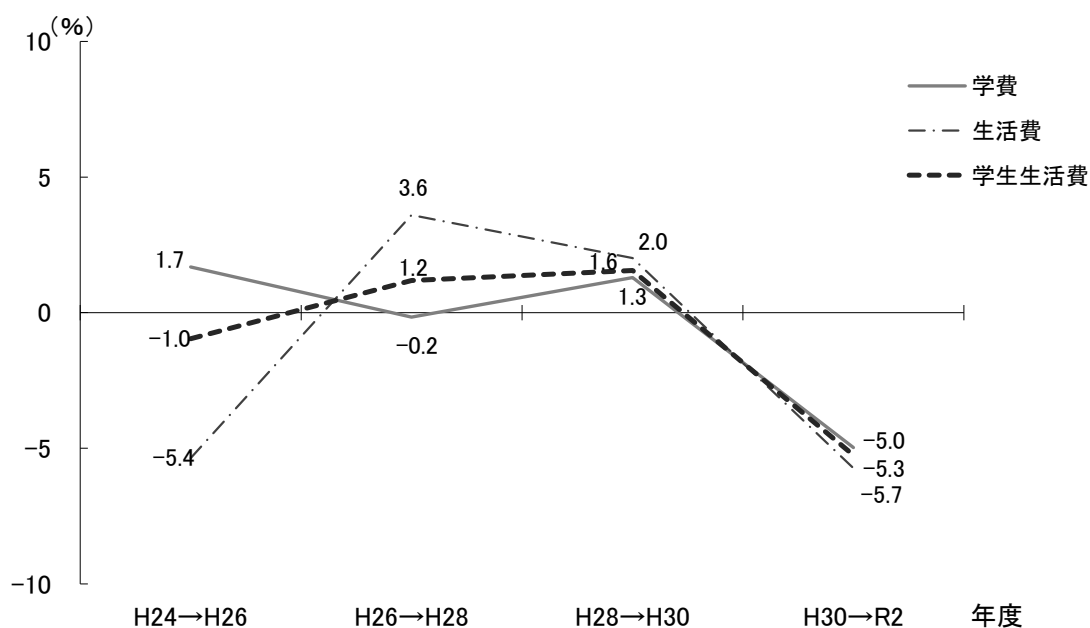
B表 学生生活費の推移

[単位:円]

区分	年度	平成26年度	平成28年度	平成30年度	令和2年度		
大(屋 間 学 部)	学	授業料及びその他の学校納付金	(3.0)	(0.2)	(1.4)	(△2.3)	
		1,044,600	1,046,500	1,061,600	1,036,900		
		修学費、課外活動費、通学費	(△6.9)	(△2.5)	(0.2)	(△24.0)	
		150,700	146,900	147,200	111,800		
	費	計	(1.7)	(△0.2)	(1.3)	(△5.0)	
		1,195,300	1,193,400	1,208,800	1,148,700		
	生	食費、住居・光熱費	(△0.8)	(2.2)	(0.7)	(△4.4)	
		356,700	364,500	367,200	350,900		
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△10.1)	(5.2)	(3.4)	(△7.1)	
	費	計	(△5.4)	(3.6)	(2.0)	(△5.7)	
	666,800	690,800	704,700	664,300			
	合計	(△1.0)	(1.2)	(1.6)	(△5.3)		
	1,862,100	1,884,200	1,913,500	1,813,000			
短(屋 期 間 大 部 学)	学	授業料及びその他の学校納付金	(3.0)	(△0.8)	(△0.2)	(△1.9)	
		964,700	957,300	955,400	937,400		
		修学費、課外活動費、通学費	(△10.2)	(△5.2)	(1.8)	(△7.5)	
		139,300	132,000	134,400	124,300		
	費	計	(1.1)	(△1.3)	(0.0)	(△2.6)	
		1,104,000	1,089,300	1,089,800	1,061,700		
	生	食費、住居・光熱費	(△14.9)	(5.3)	(8.3)	(△9.8)	
		191,600	201,800	218,500	197,100		
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△14.9)	(4.0)	(7.8)	(△7.0)	
	費	計	(△14.9)	(4.5)	(8.0)	(△8.1)	
	476,500	498,000	537,800	494,200			
	合計	(△4.3)	(0.4)	(2.5)	(△4.4)		
	1,580,500	1,587,300	1,627,600	1,555,900			
大 学 院	修	学	授業料及びその他の学校納付金	(1.9)	(△0.5)	(0.6)	(△0.6)
		648,900	645,800	649,500	645,600		
		修学費、課外活動費、通学費	(△13.1)	(△3.7)	(0.4)	(△20.4)	
		131,500	126,700	127,200	101,300		
	費	計	(△1.0)	(△1.0)	(0.5)	(△3.8)	
		780,400	772,500	776,700	746,900		
	課	生	食費、住居・光熱費	(6.4)	(2.5)	(0.6)	(△0.6)
		593,900	608,800	612,600	608,700		
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△3.5)	(1.7)	(4.5)	(△1.1)	
	費	計	(2.3)	(2.2)	(2.1)	(△0.8)	
	969,800	991,000	1,012,100	1,003,700			
	合計	(0.8)	(0.8)	(1.4)	(△2.1)		
	1,750,200	1,763,500	1,788,800	1,750,600			
博	学	授業料及びその他の学校納付金	(2.1)	(△2.8)	(△1.9)	(△0.3)	
	488,600	475,000	465,900	464,500			
	修学費、課外活動費、通学費	(△9.8)	(△5.1)	(△1.6)	(△15.6)		
	218,300	207,100	203,700	171,900			
費	計	(△1.9)	(△3.5)	(△1.8)	(△5.0)		
	706,900	682,100	669,600	636,400			
課	生	食費、住居・光熱費	(5.1)	(6.1)	(2.1)	(△1.9)	
	806,400	855,500	873,300	856,300			
活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(2.6)	(9.9)	(6.2)	(0.6)		
費	計	(4.0)	(7.8)	(3.9)	(△0.8)		
	1,455,100	1,568,600	1,630,300	1,617,900			
	合計	(2.0)	(4.1)	(2.2)	(△2.0)		
	2,162,000	2,250,700	2,299,900	2,254,300			
専	学	授業料及びその他の学校納付金	(1.0)	(△7.3)	(△2.6)	(△5.8)	
	972,500	901,100	877,300	826,800			
	修学費、課外活動費、通学費	(△5.5)	(△4.9)	(△5.8)	(△23.4)		
	194,900	185,400	174,700	133,900			
費	計	(△0.1)	(△6.9)	(△3.2)	(△8.7)		
	1,167,400	1,086,500	1,052,000	960,700			
生	食費、住居・光熱費	(3.8)	(6.9)	(△4.7)	(△6.6)		
	598,900	640,400	610,400	570,300			
活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(16.5)	(15.7)	(3.3)	(2.8)		
費	計	(9.4)	(11.0)	(△0.8)	(△1.8)		
	1,121,700	1,245,100	1,235,200	1,212,800			
	合計	(4.3)	(1.9)	(△1.9)	(△5.0)		
	2,289,100	2,331,600	2,287,200	2,173,500			
家計消費支出指数(年度)		(0.2)	(△2.5)	(2.8)	(△4.4)		
		100.2	97.7	100.5	96.0		
消費者物価指数(年度)		(3.8)	(0.2)	(1.4)	(0.3)		
		103.8	104.0	105.5	105.8		

(注) 1. ( )は、それぞれ前回調査からの増減率である。  
 2. 家計消費支出指数及び消費者物価指数について、平成24年度の指数を100とする。  
 3. 家計消費支出指数及び消費者物価指数は、総務省家計調査の結果等より算出。

第1図 学生生活費の増減率の推移（大学(昼間部)）



### (3) 設置者別の学生生活費（C表）

#### ①大学（昼間部）

学費と生活費を合わせた学生生活費の合計では、私立が国立より約50万円高くなっている。これは学費の差によるところが大きい。生活費については、国立・公立が私立よりも高くなっているが、その差の主な要因は「食費」と「住居・光熱費」となっており、自宅以外の学生の割合が高いためと考えられる。

#### ②短期大学（昼間部）

学生生活費の合計では、私立が公立より約49万円高くなっており、これは学費の差によるところが大きい。

#### ③大学院

学生生活費の合計では、私立が国立より修士課程は約32万円、博士課程は約21万円、専門職学位課程は約86万円高くなっており、いずれも学費の差によるところが大きい。

C表 設置者別の学生生活費

[単位：円]

区分		学 費			生 活 費			合 計	
		授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽・嗜好費、 その他の日常費	小 計		
大学 (昼間部)	国立	490,900	101,100	592,000	534,800	305,000	839,800	1,431,800	
	公立	506,000	99,000	605,000	449,400	318,500	767,900	1,372,900	
	私立	1,195,700	115,000	1,310,700	303,100	314,800	617,900	1,928,600	
	平均	1,036,900	111,800	1,148,700	350,900	313,400	664,300	1,813,000	
短期大学 (昼間部)	国立	...	...	...	...	...	...	...	
	公立	394,600	89,700	484,300	330,600	274,800	605,400	1,089,700	
	私立	966,500	126,100	1,092,600	190,000	298,300	488,300	1,580,900	
	平均	937,400	124,300	1,061,700	197,100	297,100	494,200	1,555,900	
大 学 院	修士課程	国立	495,600	87,600	583,200	685,500	380,400	1,065,900	1,649,100
		公立	504,500	115,800	620,300	560,400	406,200	966,600	1,586,900
		私立	949,900	123,700	1,073,600	476,300	420,000	896,300	1,969,900
		平均	645,600	101,300	746,900	608,700	395,000	1,003,700	1,750,600
	博士課程	国立	395,200	164,900	560,100	896,600	719,500	1,616,100	2,176,200
		公立	481,800	199,600	681,400	825,200	1,105,400	1,930,600	2,612,000
		私立	653,900	185,000	838,900	751,500	794,200	1,545,700	2,384,600
		平均	464,500	171,900	636,400	856,300	761,600	1,617,900	2,254,300
	専門職 学位課程	国立	533,800	120,200	654,000	574,900	512,100	1,087,000	1,741,000
		公立	580,700	140,900	721,600	521,800	1,064,400	1,586,200	2,307,800
		私立	1,143,100	147,200	1,290,300	569,300	744,600	1,313,900	2,604,200
		平均	826,800	133,900	960,700	570,300	642,500	1,212,800	2,173,500

(4) 居住形態別の学生数の割合 (D表)

居住形態別学生数の割合は、大学（昼間部）の平均では、自宅に居住して通学する者（以下「自宅」という。）が59.2%、学寮に居住する者（以下「学寮」という。）が6.8%、下宿、アパート等に居住する者（以下「アパート等」という。）が34.0%となっており、自宅の割合が最も高くなっている。

短期大学（昼間部）の平均では、自宅77.3%、学寮5.1%、アパート等17.6%と自宅の割合が最も高く、すべての学校区分の中でも、その割合は最も高くなっている。

大学院については、修士課程の平均で自宅44.4%、学寮3.6%、アパート等52.0%、博士課程の平均で自宅54.1%、学寮2.6%、アパート等43.3%、専門職学位課程の平均で自宅68.7%、学寮4.9%、アパート等26.5%となっている。

さらに設置者別に見てみると、いずれの学校区分でも、私立は自宅の割合が高くなっている。また、大学（昼間部）、修士課程では、国立・公立、特に国立でアパート等の割合が高くなっている。

D 表 居住形態別学生数の割合

[単位：%]

区分		自宅	学寮	アパート等	計	
大学 (昼間部)	国立	35.7	6.2	58.1	100.0	
	公立	43.7	3.3	53.0	100.0	
	私立	65.2	7.2	27.6	100.0	
	平均	59.2	6.8	34.0	100.0	
短期大学 (昼間部)	国立	...	...	...	...	
	公立	50.9	7.0	42.0	100.0	
	私立	78.6	5.0	16.3	100.0	
	平均	77.3	5.1	17.6	100.0	
大 学	修士課程	国立	33.7	4.1	62.1	100.0
		公立	47.0	4.0	49.0	100.0
		私立	61.9	2.6	35.5	100.0
		平均	44.4	3.6	52.0	100.0
院	博士課程	国立	49.9	3.1	47.1	100.0
		公立	60.7	0.9	38.3	100.0
		私立	63.4	1.8	34.9	100.0
		平均	54.1	2.6	43.3	100.0
院	専門職 学位課程	国立	54.6	8.0	37.5	100.0
		公立	68.9	13.9	17.2	100.0
		私立	78.3	2.1	19.6	100.0
		平均	68.7	4.9	26.5	100.0

## (5) 居住形態別の学生生活費 (E表、第2図)

## ①大学 (昼間部)

居住形態別の学生生活費は、国立・公立・私立いずれもアパート等が最も高く、国立の自宅を基準とした場合の1.71～2.45倍となっており、自宅との差額は、それぞれ国立約73万円、公立約70万円、私立約71万円となっている。学寮は、国立・公立・私立いずれも自宅とアパート等の中間にあって、国立の自宅を基準とした場合の1.29～2.12倍となっている。

自宅と学寮、アパート等の学生生活費の差は、主として食費、住居・光熱費による差が大きく、これを大学 (昼間部) の平均を例にとって月額で示したものが第2図である。また、学寮とアパート等の差についても、住居・光熱費による差が大きく、学寮と比較すると、アパート等で月額約1.6万円高くなっている。

## ③短期大学 (昼間部)

居住形態別の学生生活費は、公立・私立いずれもアパート等が高く、公立の自宅を基準とした場合の1.63～2.39倍となっており、自宅との差額は、それぞれ公立約53万円、私立約55万円となっている。

## ③大学院

居住形態別の学生生活費は、すべての課程において、国立・公立・私立いずれもアパート等が最も高くなっている。

国立の自宅と私立のアパート等の差は、修士課程で2.03倍、博士課程で1.42倍、専門職学位課程で1.96倍となっている。

E表 居住形態別学生生活費

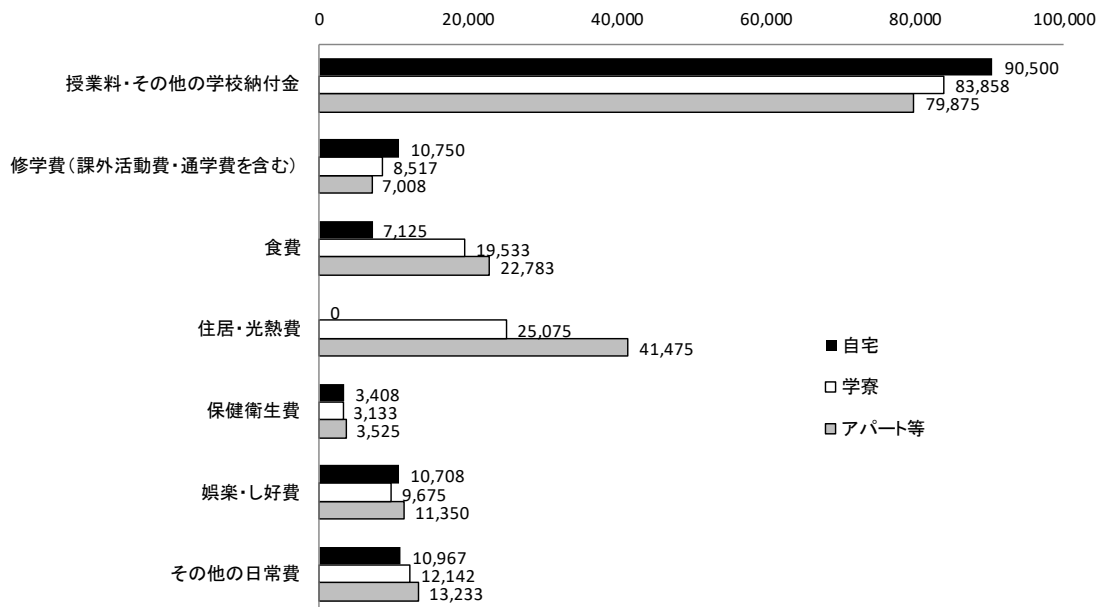
[単位：円]

区 分		自 宅	学 寮	アパ－ト等	
大学 (昼間部)	国立	987,100 (1.00)	1,274,900 (1.29)	1,721,800 (1.74)	
	公立	993,000 (1.01)	1,321,300 (1.34)	1,689,000 (1.71)	
	私立	1,704,800 (1.73)	2,090,600 (2.12)	2,414,300 (2.45)	
	平均	1,601,500	1,943,200	2,151,000	
短期大学 (昼間部)	国立	… …	… …	… …	
	公立	847,900 (1.00)	1,093,200 (1.29)	1,382,100 (1.63)	
	私立	1,472,400 (1.74)	1,843,100 (2.17)	2,022,300 (2.39)	
	平均	1,451,600	1,790,800	1,945,000	
大 学 院	修士課程	国立	1,165,400 (1.00)	1,505,600 (1.29)	1,888,600 (1.62)
		公立	1,266,200 (1.09)	1,512,300 (1.30)	1,837,700 (1.58)
		私立	1,690,000 (1.45)	2,168,700 (1.86)	2,366,300 (2.03)
		平均	1,418,800	1,671,500	1,996,200
	博士課程	国立	1,863,000 (1.00)	1,758,500 (0.94)	2,353,700 (1.26)
		公立	2,336,100 (1.25)	1,682,700 (0.90)	2,819,100 (1.51)
		私立	2,146,900 (1.15)	2,033,900 (1.09)	2,648,400 (1.42)
		平均	1,991,600	1,802,600	2,439,600
	専門職 学位課程	国立	1,450,800 (1.00)	1,555,800 (1.07)	2,036,700 (1.40)
		公立	2,554,200 (1.76)	1,281,700 (0.88)	2,811,300 (1.94)
		私立	2,507,500 (1.73)	2,059,200 (1.42)	2,842,600 (1.96)
		平均	2,091,500	1,650,700	2,379,900

(注) ( )は、国立(短期大学では公立)の自宅を基準(1.00)とした場合の比率である。

第2図 居住形態別学生生活費の支出状況(月額)〔大学(昼間部)平均〕

[単位：円]



(注) 自宅生は住居・光熱費のデータなし。

## (6) 地域別・居住形態別学生生活費 (F表、第3図)

大学（昼間部）の学生生活費を通過しているキャンパスの所在地別に比較すると、国公私立平均では、「東京圏<sup>(注1)</sup>」が最も高く、「京阪神<sup>(注1)</sup>」、「その他」の順となっている。設置者別・居住形態別に見てみると、最も高いのは私立「東京圏」のアパート等で約252.7万円となっている。

短期大学（昼間部）については、国公私立平均では、「京阪神」が最も高く、設置者別・居住形態別に見てみると、最も高いのは私立「東京圏」のアパート等で約242.6万円となっている。

大学院のうち修士課程、専門職学位課程における国公私立平均では、「東京圏」が最も高く、博士課程における国公私立平均では、「その他」が最も高くなっている。

F表 地域別・居住形態別学生生活費

[単位:円]

区分	東京圏			京阪神			その他			全国平均					
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計			
大学 (昼間部)	国公私立平均	1,296,700	637,100	1,933,800	1,223,600	630,200	1,853,800	1,013,500	697,000	1,710,500	1,148,700	664,300	1,813,000		
	国立	自宅	660,800	368,800	1,029,600	636,300	359,500	995,800	625,200	349,500	974,700	632,900	354,200	987,100	
		学寮	520,700	967,400	1,488,100	631,100	1,217,100	1,848,200	459,900	741,800	1,201,700	477,600	797,300	1,274,900	
		アパート等	578,900	1,313,300	1,892,200	598,600	1,218,700	1,817,300	576,500	1,123,100	1,699,600	579,000	1,142,800	1,721,800	
		平均	625,100	702,900	1,328,000	617,800	802,600	1,420,400	583,700	862,300	1,446,000	592,000	839,800	1,431,800	
	公立	自宅	649,700	376,800	1,026,500	628,800	360,700	989,500	645,100	346,800	991,900	642,800	350,200	993,000	
		学寮	652,000	938,000	1,590,000	413,600	738,700	1,152,300	588,100	742,900	1,331,000	576,600	744,700	1,321,300	
		アパート等	470,400	1,436,600	1,907,000	592,400	1,190,700	1,783,100	581,700	1,081,100	1,662,800	575,700	1,113,300	1,689,000	
		平均	540,100	1,027,400	1,567,500	609,900	704,200	1,314,100	608,700	759,700	1,368,400	605,000	767,900	1,372,900	
	私立	自宅	1,345,800	406,700	1,752,500	1,355,800	396,300	1,752,100	1,247,400	371,900	1,619,300	1,312,800	392,000	1,704,800	
		学寮	1,242,900	827,900	2,070,800	1,024,300	840,700	1,865,000	1,349,700	868,400	2,218,100	1,246,000	844,600	2,090,600	
		アパート等	1,344,900	1,181,600	2,526,500	1,348,100	1,103,400	2,451,500	1,293,700	1,012,900	2,306,600	1,322,700	1,091,600	2,414,300	
		平均	1,337,200	630,100	1,967,300	1,334,600	602,700	1,937,300	1,269,400	612,600	1,882,000	1,310,700	617,900	1,928,600	
公私平均	1,170,300	502,900	1,673,200	1,156,600	518,400	1,675,000	1,003,500	485,400	1,488,900	1,061,700	494,200	1,555,900			
短期大学 (昼間部)	国立	自宅	481,300	330,300	811,600	-	-	-	526,100	324,700	850,800	522,900	325,000	847,900	
	アパート等	405,800	1,137,600	1,543,400	-	-	-	448,600	931,300	1,379,900	448,000	934,100	1,382,100		
	私立	自宅	1,171,700	352,600	1,524,300	1,166,100	400,400	1,566,500	1,073,000	352,600	1,425,600	1,111,500	360,900	1,472,400	
	アパート等	1,172,700	1,252,800	2,425,500	1,135,300	1,178,500	2,313,800	963,000	889,000	1,852,000	1,025,800	996,500	2,022,300		
公私平均	949,600	932,300	1,881,900	745,500	974,200	1,719,700	643,700	1,052,100	1,695,800	746,900	1,003,700	1,750,600			
大 学 院	修士課程	国立	自宅	669,500	488,300	1,157,800	657,700	508,600	1,166,300	624,200	544,400	1,168,600	642,600	522,800	1,165,400
		アパート等	585,500	1,492,200	2,077,700	557,700	1,398,600	1,956,300	556,100	1,288,000	1,844,100	559,200	1,329,400	1,888,600	
		公立	自宅	640,200	536,600	1,176,800	690,800	512,600	1,203,400	670,500	650,200	1,320,700	675,900	590,300	1,266,200
		アパート等	555,100	1,443,900	1,999,000	584,600	1,250,900	1,835,500	582,400	1,240,200	1,822,600	581,100	1,256,600	1,837,700	
	博士課程	国立	自宅	1,139,700	600,900	1,740,600	1,110,900	525,900	1,636,800	1,018,500	593,300	1,611,800	1,105,800	584,200	1,690,000
		アパート等	1,077,600	1,393,200	2,470,800	1,043,000	1,291,400	2,334,400	958,400	1,247,600	2,206,000	1,035,800	1,330,500	2,366,300	
		公立	自宅	721,100	1,477,800	2,198,900	555,600	1,573,100	2,128,700	628,900	1,710,400	2,339,300	636,400	1,617,900	2,254,300
		アパート等	652,400	961,300	1,613,700	554,700	1,256,600	1,811,300	702,200	1,308,600	2,010,800	659,400	1,203,600	1,863,000	
	専門職学位課程	国立	自宅	511,400	1,837,500	2,348,900	447,900	1,838,500	2,286,400	553,500	1,832,300	2,385,800	519,000	1,834,700	2,353,700
		公立	自宅	780,800	1,014,900	1,795,700	758,700	1,112,700	1,871,400	792,500	1,678,400	2,470,900	786,100	1,550,000	2,336,100
		アパート等	550,300	1,707,600	2,257,900	592,700	1,618,800	2,211,500	614,000	2,340,900	2,954,900	607,900	2,211,200	2,819,100	
		私立	自宅	874,900	1,230,900	2,105,800	857,400	1,026,800	1,884,200	861,400	1,672,700	2,534,100	868,900	1,278,000	2,146,900
	アパート等	834,200	1,931,100	2,765,300	755,300	1,540,600	2,295,900	836,300	1,865,100	2,701,400	818,200	1,830,200	2,648,400		
公私平均	1,195,000	1,329,700	2,524,700	980,900	1,102,100	2,083,000	730,400	1,169,000	1,899,400	960,700	1,212,800	2,173,500			
専 門 職 学 位 課 程	国立	自宅	756,700	438,000	1,194,700	704,100	762,700	1,466,800	687,400	866,400	1,553,800	707,200	743,600	1,450,800	
	アパート等	685,400	1,457,400	2,142,800	727,000	1,545,800	2,272,800	610,800	1,329,000	1,939,800	645,100	1,391,600	2,036,700		
	公立	自宅	-	-	-	671,000	492,000	1,163,000	796,600	1,844,500	2,641,100	789,200	1,765,000	2,554,200	
	アパート等	-	-	-	786,000	1,960,000	2,746,000	704,100	2,116,200	2,820,300	714,500	2,096,800	2,811,300		
専 門 職 学 位 課 程	私立	自宅	1,372,800	1,378,900	2,751,700	1,299,800	855,300	2,155,100	1,278,600	649,100	1,927,700	1,343,600	1,163,900	2,507,500	
	アパート等	1,289,400	1,721,700	3,011,100	1,075,800	1,308,700	2,384,500	1,257,700	1,924,300	3,182,000	1,219,200	1,623,400	2,842,600		

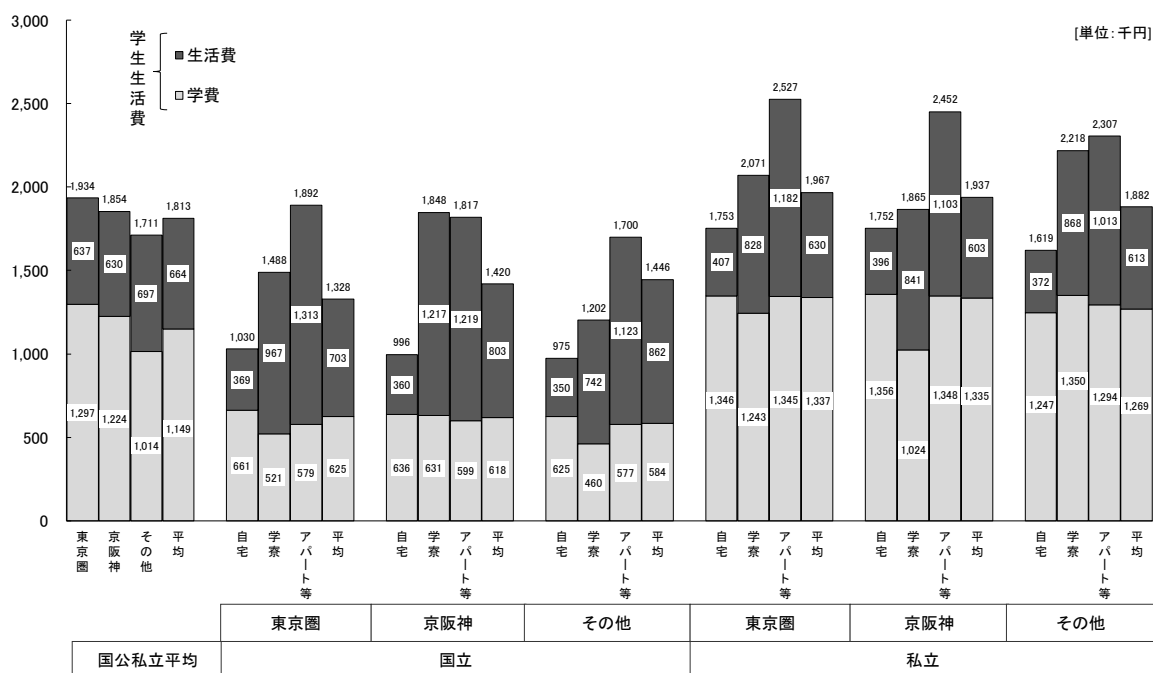
(注)1. 「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

2. 短期大学(昼間部)、大学院の各課程の学寮については、ページの都合で省略した。

3. 大学院は、「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

### 第3図 地域別・居住形態別学生生活費(大学(昼間部))



(注) 公立大学の結果は「B-1 表 居住形態別・地域別学生生活費の内訳」参照。

### (7) 男女別・居住形態別学生生活費 (G表)

大学(昼間部)について居住形態別の学生生活費を男女別に比較すると、国立の学寮を除き、男子より女子のほうが高くなっている。特に、アパート等では、男子より女子のほうが国立で約6.5万円、私立で約10.5万円高くなっている。

短期大学(昼間部)の学生生活費については、アパート等では、男子より女子のほうが高くなっているが、自宅、私立の学寮では、女子より男子のほうが高くなっている。

大学院の学生生活費については、大学(昼間部)と同様に男子より女子のほうが高い傾向となっているが、博士課程、専門職学位課程の国立の学寮、専門職学位課程の私立のアパート等では、女子より男子のほうが高くなっている。



G表 男女別・居住形態別学生生活費

[単位:円]

区分			学 費			生 活 費			合 計	
			授業料 学校納付金 (割合)	修学費 課外活動費 通学費(割合)	小 計	食 費 住居・光熱費 (割合)	保健衛生費 娯楽し好費 その他の日常費(割合)	小 計		
大学(昼間部)	国立	男	自宅 学 寮	503,800 (51.8%)	134,000 (13.8%)	637,800	82,500 (8.5%)	253,100 (26.0%)	335,600	973,400
			アパート等	389,300 (30.2%)	96,800 (7.5%)	486,100	507,100 (39.3%)	296,700 (23.0%)	803,800	1,289,900
			500,200 (29.5%)	82,800 (4.9%)	583,000	807,100 (47.6%)	305,000 (18.0%)	1,112,100	1,695,100	
	私立	女	自宅 学 寮	495,700 (49.3%)	130,800 (13.0%)	626,500	77,500 (7.7%)	301,100 (30.0%)	378,600	1,005,100
			アパート等	373,100 (29.8%)	92,200 (7.4%)	465,300	467,600 (37.3%)	320,100 (25.5%)	787,700	1,253,000
			491,300 (27.9%)	81,800 (4.6%)	573,100	835,800 (47.5%)	351,300 (20.0%)	1,187,100	1,760,200	
	私立	男	自宅 学 寮	1,150,600 (69.1%)	122,900 (7.4%)	1,273,500	93,700 (5.6%)	298,900 (17.9%)	392,600	1,666,100
			アパート等	1,107,100 (55.8%)	119,300 (6.0%)	1,226,400	492,900 (24.8%)	265,900 (13.4%)	758,800	1,985,200
			1,236,200 (52.3%)	88,300 (3.7%)	1,324,500	727,300 (30.8%)	310,900 (13.2%)	1,038,200	2,362,700	
	私立	女	自宅 学 寮	1,210,300 (69.8%)	132,300 (7.6%)	1,342,600	81,300 (4.7%)	310,300 (17.9%)	391,600	1,734,200
			アパート等	1,181,400 (53.4%)	87,300 (3.9%)	1,268,700	607,900 (27.5%)	337,100 (15.2%)	945,000	2,213,700
			1,235,700 (50.1%)	85,000 (3.4%)	1,320,700	774,400 (31.4%)	372,800 (15.1%)	1,147,200	2,467,900	
短期大学(昼間部)	国立	男	自宅 学 寮	340,300 (38.1%)	160,000 (17.9%)	500,300	87,800 (9.8%)	304,200 (34.1%)	392,000	892,300
			アパート等	-	-	-	-	-	-	-
			339,000 (27.7%)	44,200 (3.6%)	383,200	650,100 (53.1%)	191,100 (15.6%)	841,200	1,224,400	
	私立	女	自宅 学 寮	403,300 (47.8%)	121,500 (14.4%)	524,800	52,200 (6.2%)	267,300 (31.7%)	319,500	844,300
			アパート等	373,400 (34.2%)	49,100 (4.5%)	422,500	390,600 (35.7%)	280,100 (25.6%)	670,700	1,093,200
			399,000 (28.5%)	55,600 (4.0%)	454,600	654,900 (46.8%)	288,600 (20.6%)	943,500	1,398,100	
	私立	男	自宅 学 寮	975,700 (64.2%)	133,500 (8.8%)	1,109,200	84,600 (5.6%)	325,100 (21.4%)	409,700	1,518,900
			アパート等	1,012,100 (49.0%)	129,300 (6.3%)	1,141,400	671,300 (32.5%)	253,200 (12.3%)	924,500	2,065,900
			964,900 (47.8%)	85,200 (4.2%)	1,050,100	641,600 (31.8%)	329,000 (16.3%)	970,600	2,020,700	
	私立	女	自宅 学 寮	974,100 (66.4%)	137,700 (9.4%)	1,111,800	66,900 (4.6%)	288,700 (19.7%)	355,600	1,467,400
			アパート等	927,400 (51.0%)	76,100 (4.2%)	1,003,500	511,700 (28.1%)	304,900 (16.8%)	816,600	1,820,100
			934,300 (46.2%)	87,000 (4.3%)	1,021,300	676,000 (33.4%)	325,500 (16.1%)	1,001,500	2,022,800	
大学院修士課程	国立	男	自宅 学 寮	513,500 (45.9%)	123,600 (11.0%)	637,100	146,600 (13.1%)	336,200 (30.0%)	482,800	1,119,900
			アパート等	450,100 (30.0%)	73,600 (4.9%)	523,700	632,400 (42.1%)	345,600 (23.0%)	978,000	1,501,700
			489,700 (26.1%)	67,900 (3.6%)	557,600	948,700 (50.5%)	373,300 (19.9%)	1,322,000	1,879,600	
	私立	女	自宅 学 寮	507,700 (40.2%)	146,600 (11.6%)	654,300	145,400 (11.5%)	462,700 (36.7%)	608,100	1,262,400
			アパート等	440,500 (29.1%)	70,400 (4.6%)	510,900	558,100 (36.9%)	445,500 (29.4%)	1,003,600	1,514,500
			496,000 (25.8%)	69,000 (3.6%)	565,000	940,500 (49.0%)	413,300 (21.5%)	1,353,800	1,918,800	
	私立	男	自宅 学 寮	963,600 (59.0%)	142,200 (8.7%)	1,105,800	136,900 (8.4%)	390,400 (23.9%)	527,300	1,633,100
			アパート等	904,100 (42.1%)	62,600 (2.9%)	966,700	788,600 (36.7%)	394,100 (18.3%)	1,182,700	2,149,400
			965,600 (41.5%)	79,400 (3.4%)	1,045,000	919,300 (39.5%)	364,100 (15.6%)	1,283,400	2,328,400	
	私立	女	自宅 学 寮	937,200 (52.4%)	168,500 (9.4%)	1,105,700	141,800 (7.9%)	540,100 (30.2%)	681,900	1,787,600
			アパート等	827,700 (37.6%)	64,000 (2.9%)	891,700	940,300 (42.7%)	368,900 (16.8%)	1,309,200	2,200,900
			917,000 (37.6%)	100,300 (4.1%)	1,017,300	998,000 (40.9%)	426,500 (17.5%)	1,424,500	2,441,800	
大学院博士課程	国立	男	自宅 学 寮	440,900 (23.7%)	225,500 (12.1%)	666,400	356,000 (19.2%)	835,200 (45.0%)	1,191,200	1,857,600
			アパート等	352,400 (18.9%)	148,800 (8.0%)	501,200	758,100 (40.7%)	602,400 (32.4%)	1,360,500	1,861,700
			376,500 (16.3%)	134,000 (5.8%)	510,500	1,189,000 (51.5%)	609,600 (26.4%)	1,798,600	2,309,100	
	私立	女	自宅 学 寮	429,100 (22.9%)	218,300 (11.7%)	647,400	271,100 (14.5%)	953,800 (50.9%)	1,224,900	1,872,300
			アパート等	222,800 (15.1%)	130,600 (8.9%)	353,400	594,300 (40.3%)	527,700 (35.8%)	1,122,000	1,475,400
			393,400 (15.8%)	153,000 (6.1%)	546,400	1,160,600 (46.5%)	788,000 (31.6%)	1,948,600	2,495,000	
	私立	男	自宅 学 寮	644,400 (32.0%)	224,200 (11.1%)	868,600	302,600 (15.0%)	844,300 (41.9%)	1,146,900	2,015,500
			アパート等	547,600 (29.2%)	110,100 (5.9%)	657,700	776,400 (41.4%)	440,500 (23.5%)	1,216,900	1,874,600
			639,200 (24.8%)	161,500 (6.3%)	800,700	1,202,200 (46.6%)	578,500 (22.4%)	1,780,700	2,581,400	
	私立	女	自宅 学 寮	674,700 (29.2%)	194,500 (8.4%)	869,200	323,000 (14.0%)	1,118,000 (48.4%)	1,441,000	2,310,200
			アパート等	547,600 (22.9%)	56,500 (2.4%)	604,100	914,800 (38.3%)	869,600 (36.4%)	1,784,400	2,388,500
			680,900 (24.7%)	164,700 (6.0%)	845,600	1,203,100 (43.7%)	706,200 (25.6%)	1,909,300	2,754,900	
大学院専門職学位課程	国立	男	自宅 学 寮	590,800 (41.9%)	132,400 (9.4%)	723,200	158,500 (11.3%)	527,000 (37.4%)	685,500	1,408,700
			アパート等	396,600 (25.2%)	66,900 (4.2%)	463,500	570,100 (36.2%)	541,200 (34.4%)	1,111,300	1,574,800
			543,400 (27.9%)	111,300 (5.7%)	654,700	916,200 (47.0%)	380,100 (19.5%)	1,296,300	1,951,000	
	私立	女	自宅 学 寮	539,800 (35.9%)	147,200 (9.8%)	687,000	181,100 (12.0%)	636,800 (42.3%)	817,900	1,504,900
			アパート等	399,000 (26.1%)	109,800 (7.2%)	508,800	524,900 (34.4%)	492,500 (32.3%)	1,017,400	1,526,200
			515,800 (23.6%)	112,700 (5.2%)	628,500	974,200 (44.6%)	582,300 (26.6%)	1,556,500	2,185,000	
	私立	男	自宅 学 寮	1,151,800 (46.6%)	179,100 (7.2%)	1,330,900	309,100 (12.5%)	832,000 (33.7%)	1,141,100	2,472,000
			アパート等	890,100 (46.2%)	149,000 (7.7%)	1,039,100	594,200 (30.8%)	294,300 (15.3%)	888,500	1,927,600
			1,091,200 (38.3%)	132,700 (4.7%)	1,223,900	1,085,700 (38.2%)	535,800 (18.8%)	1,621,500	2,845,400	
	私立	女	自宅 学 寮	1,220,100 (47.8%)	139,400 (5.5%)	1,359,500	259,800 (10.2%)	933,200 (36.6%)	1,193,000	2,552,500
			アパート等	1,086,100 (48.9%)	59,000 (2.7%)	1,145,100	696,600 (31.4%)	377,700 (17.0%)	1,074,300	2,219,400
			1,095,500 (38.6%)	115,700 (4.1%)	1,211,200	1,035,400 (36.5%)	590,900 (20.8%)	1,626,300	2,837,500	

(注) 大学昼間部、大学院の各課程の公立については、ページの都合で省略した。

## (8) 学年別の学生生活費 (H表)

学年別の学生生活費については、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では、高学年になるにつれて学生生活費が高くなる傾向となっている。

大学（昼間部）の内訳を見ると、生活費が高学年になるにつれ高くなる傾向となっている。なお、1年次から4年次と比較して、5年次、6年次の学生生活費が特に高くなっているが、これは、5年次、6年次が医、歯、獣医、薬学部の学生であり、学費が高くなっているためである。

博士課程についても、高学年になるにつれて学生生活費が高くなる傾向となっている。なお、4年次は医・歯学等の4年制博士課程の学生であり、1年次から3年次と比較して、生活費が特に高くなっている。

H表 学年別の学生生活費

[単位:円]

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
大 学 部 （ 昼 間 部 ）	学 費	1,179,800	1,133,000	1,105,900	1,104,200	2,176,800	1,984,900	
	生活費	537,700	667,100	702,500	746,900	893,600	966,500	
	計	1,717,500	1,800,100	1,808,400	1,851,100	3,070,400	2,951,400	
短 期 大 学 （ 昼 間 部 ）	学 費	1,067,300	1,053,500	1,108,900	…	…	…	
	生活費	447,800	539,100	490,400	…	…	…	
	計	1,515,100	1,592,600	1,599,300	…	…	…	
大 学 院	修 士 課 程	学 費	765,800	728,900	…	…	…	…
		生活費	960,000	1,047,900	…	…	…	…
		計	1,725,800	1,776,800	…	…	…	…
	博 士 課 程	学 費	639,900	642,800	613,900	713,300	…	…
		生活費	1,545,300	1,585,000	1,577,600	2,315,100	…	…
		計	2,185,200	2,227,800	2,191,500	3,028,400	…	…
	学 位 課 程 専 門 職	学 費	995,700	925,000	942,800	…	…	…
		生活費	1,265,400	1,206,300	985,000	…	…	…
		計	2,261,100	2,131,300	1,927,800	…	…	…

## 2. 学生の収入の状況（I表、第4図）

学生生活費は、家庭からの給付、奨学金及びアルバイト収入などで賄われているが、それぞれの学校区分において、その収入の状況には差異が見られる（I表、第4図参照）。

また、前回調査と収入の状況を比較したところ、すべての学校区分において、家庭からの給付の金額及び収入総額に占める割合がともに減少している。その一方で、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では、奨学金の金額及び収入総額に占める割合がともに増加している。

### ①大学（昼間部）

収入総額に占める割合では、「家庭からの給付」が最も高く 59.4%となっているが、前回調査と比較すると 0.4 ポイント減となっている。

収入総額に占める割合を設置者別に見てみると、公立のほうは国立・私立より「奨学金」が 3.9～5.9 ポイント高く、「アルバイト」も 2.8～5.1 ポイント高い一方、「家庭からの給付」は公立のほうは 8.1～9.2 ポイント低くなっている。収入総額は私立より公立のほうは約 51 万円低くなっているが、これは、「家庭からの給付」の差によるところが大きい。

男女別に見てみると、収入総額に占める割合に大きな差は見られないが、収入総額では男子より女子のほうは約 7.5 万円高くなっており、これも「家庭からの給付」の差によるところが大きい。

### ②短期大学（昼間部）

収入総額に占める割合では、「家庭からの給付」が最も高く 51.1%となっているが、前回調査と比較すると 0.9 ポイント減となっている。また、大学（昼間部）の収入総額に占める割合と比較したところ、「奨学金」は大学（昼間部）より 6.9 ポイント高い一方、「家庭からの給付」は 8.3 ポイント低くなっている。

### ③大学院<sup>(※)</sup>

修士課程の収入総額に占める割合では、「家庭からの給付」が最も高く 47.5%となっているが、前回調査と比較すると 1.2 ポイント減となっている。その一方で、博士課程、専門職学位課程の収入総額に占める割合では、「定職・その他」が最も高く、それぞれ 38.7%（博士課程）、51.4%（専門職学位課程）となっており、前回調査と比較すると 2.1 ポイント増（博士課程）、6.7 ポイント増（専門職学位課程）となっている。

博士課程については、収入総額に占める「アルバイト」の割合がすべての学校区分の中で最も高く 25.6%となっている。その一方で、収入総額に占める「家庭からの給付」の割合は、すべての学校区分の中で最も低く 12.0%となっている。

専門職学位課程については、収入総額に占める「定職・その他」の割合がすべての学校区分の中で最も高く、51.4%と特に高い割合となっている。その一方で、収入総額に占める「奨学金」「アルバイト」の割合は、すべての学校区分の中で最も低く、それぞれ 14.2%、6.9%となっている。

(※) 大学院については、「配偶者あり」と回答した者を除き集計していることや社会人学生が大学（昼間部）や短期大学（昼間部）と比較して多いこと等、資料の取扱いには留意を要する。

I表 収入及びその構成割合

[単位:円]

区 分		家庭からの給付	奨 学 金	アルバイト	定職・その他	収入総額
大学 (昼間部)	国立	(58.8) 927,900	(17.5) 276,700	(20.8) 328,800	(2.8) 44,400	(100.0) 1,577,800
	公立	(50.7) 772,000	(23.4) 357,300	(23.6) 359,300	(2.3) 35,100	(100.0) 1,523,700
	私立	(59.9) 1,219,100	(19.5) 395,800	(18.5) 375,400	(2.1) 43,500	(100.0) 2,033,800
	男	(58.6) 1,106,400	(20.3) 383,500	(18.9) 357,200	(2.2) 41,400	(100.0) 1,888,500
	女	(60.1) 1,179,800	(18.5) 363,700	(19.1) 375,000	(2.3) 44,900	(100.0) 1,963,400
	平均	(59.4) 1,144,700	(19.4) 373,200	(19.0) 366,500	(2.2) 43,200	(100.0) 1,927,600
短期大学(昼間部)		(51.1) 846,000	(26.3) 435,000	(18.1) 300,100	(4.5) 74,200	(100.0) 1,655,300
大学院	修士課程	(47.5) 925,300	(21.3) 415,100	(17.4) 339,300	(13.8) 268,600	(100.0) 1,948,300
	博士課程	(12.0) 382,100	(23.8) 759,700	(25.6) 816,700	(38.7) 1,234,000	(100.0) 3,192,500
	専門職学位課程	(27.5) 764,100	(14.2) 394,600	(6.9) 190,400	(51.4) 1,424,900	(100.0) 2,774,000

(注)1. ( )は、収入総額に占める割合である。

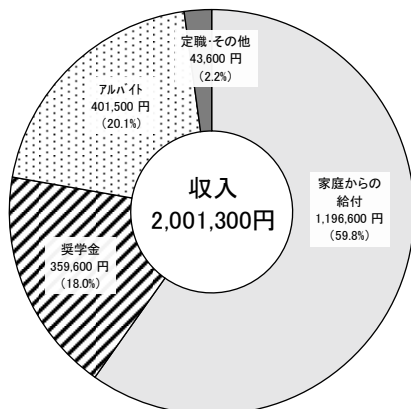
2. 大学院の「アルバイト」には、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)を含む。

3. 大学院の「配偶者あり」と回答した者は、集計に含まない。

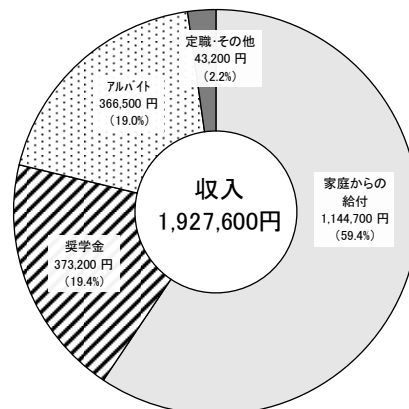
第4図 収入額内訳

平成30年度

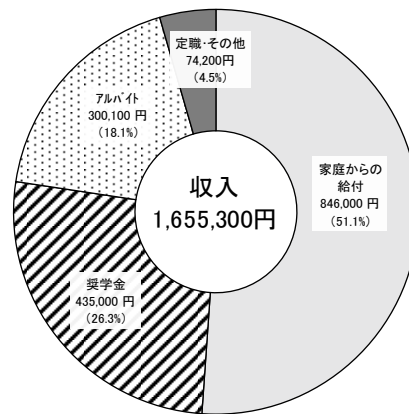
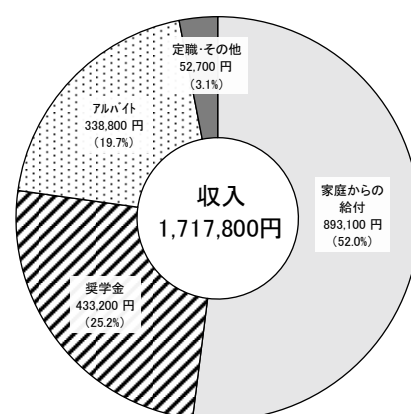
【大学(昼間部)】



令和2年度

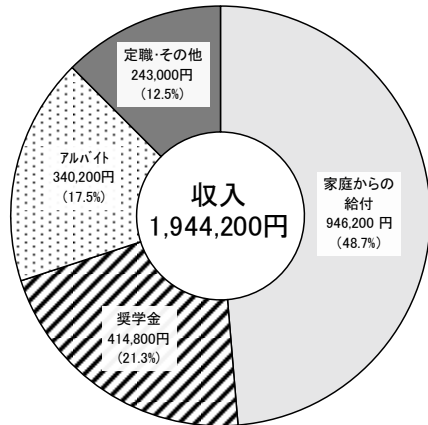


【短期大学(昼間部)】

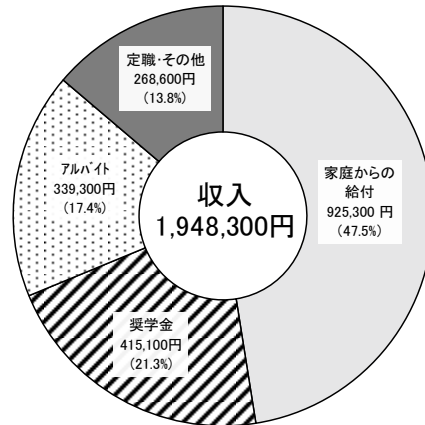


平成30年度

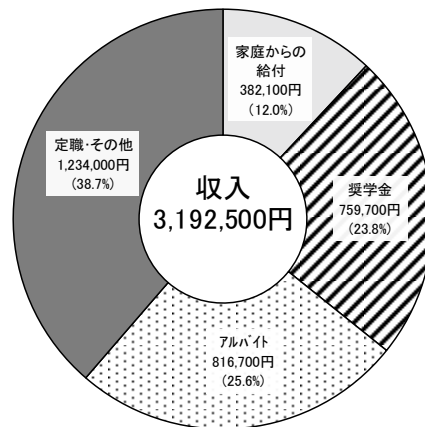
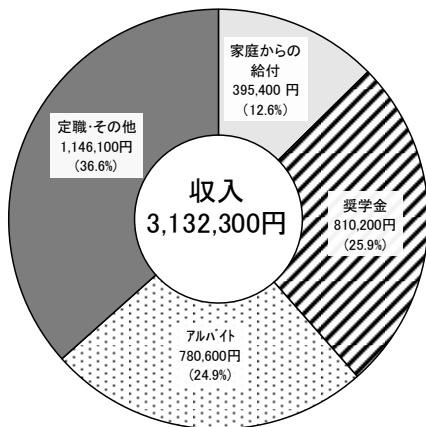
【大学院修士課程】



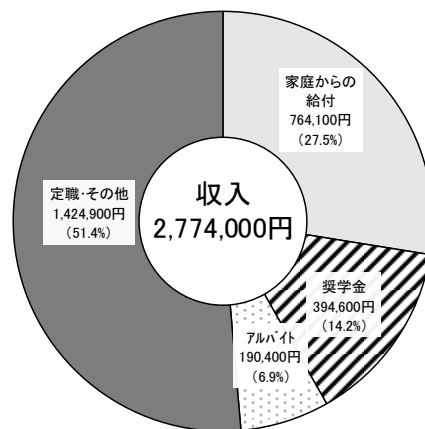
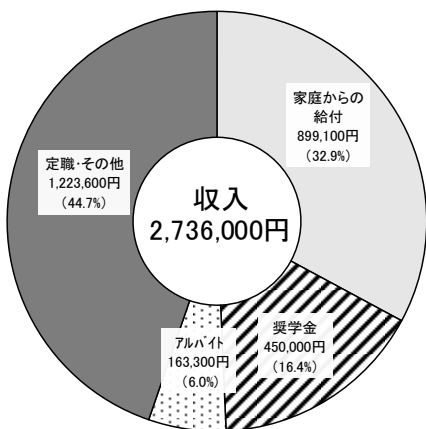
令和2年度



【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



### 3. 家庭からの給付額等

#### (1) 家庭からの給付 (J表)

家庭からの給付額について前回調査と比較すると、すべての学校区分で減少している。次に、学生生活費（支出額）を分母とした家庭からの給付の割合は、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）及び修士課程で 50%を超えており、特に大学（昼間部）は 60%台である一方、博士課程、専門職学位課程の割合は低くなっている。また、この割合を平成 24 年度以降で見ると、修士課程を除き減少傾向であり、特に短期大学（昼間部）では一貫して減少している。

J表 家庭からの給付額の推移

[単位:円]

区分		年度	平成24年度	平成26年度	平成28年度	平成30年度	令和2年度
大学 (昼間部)	家庭からの給付額		1,215,200	1,193,800	1,180,700	1,196,600	1,144,700
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		64.6 %	64.1 %	62.7 %	62.5 %	63.1 %
短期大学 (昼間部)	家庭からの給付額		989,900	931,300	913,900	893,100	846,000
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		59.9 %	58.9 %	57.6 %	54.9 %	54.4 %
大 学 院	修士課程	家庭からの給付額	873,500	914,800	930,100	946,200	925,300
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	50.3 %	52.3 %	52.7 %	52.9 %	52.9 %
	博士課程	家庭からの給付額	383,300	388,500	373,100	395,400	382,100
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	18.1 %	18.0 %	16.6 %	17.2 %	16.9 %
	専門職学位課程	家庭からの給付額	993,700	914,900	862,300	899,100	764,100
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	45.3 %	40.0 %	37.0 %	39.3 %	35.2 %

#### (2) 家庭の年間平均収入 (K表)

家庭の年間平均収入を設置者別に見てみると、博士課程を除き公立の年間平均収入額が最も低くなっている。

各学校区分での年間平均収入額を比較すると、修士課程が最も高く 836 万円、短期大学（昼間部）が最も低く 644 万円となっており、前回調査と同じ傾向である。なお、大学院の集計では、「配偶者あり」と回答した者を含めないため、調査結果を利用する際は留意が必要である。

K表 家庭の年間平均収入

[単位：千円]

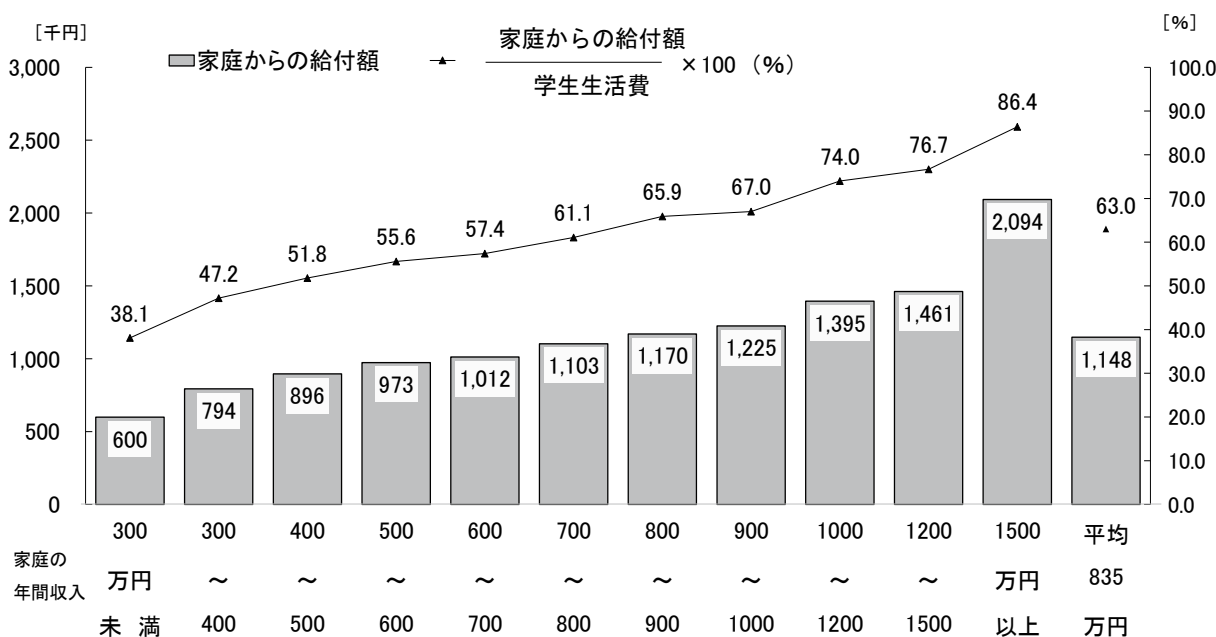
区 分		大学 (昼間部)	短期大学 (昼間部)	大 学 院		
				修士課程	博士課程	専門職 学位課程
令和2年度	国 立	8,560	---	8,460	7,370	7,980
	公 立	7,250	6,290	7,690	8,190	6,580
	私 立	8,380	6,440	8,300	9,370	8,240
	平 均	(△ 3.1) 8,350	(0.6) 6,440	(△ 3.8) 8,360	(△ 0.4) 7,910	(△ 4.4) 8,050
平成30年度平均		(3.9) 8,620	(3.4) 6,400	(4.1) 8,690	(7.7) 7,940	(6.0) 8,420
平成28年度平均		(0.7) 8,300	(△ 5.9) 6,190	(5.6) 8,350	(0.4) 7,370	(△ 0.6) 7,940
平成26年度平均		(1.5) 8,240	(3.9) 6,580	(1.5) 7,910	(6.4) 7,340	(△ 22.1) 7,990
平成24年度平均		(1.9) 8,120	(0.0) 6,330	(△ 2.0) 7,790	(△ 7.4) 6,900	(17.5) 10,260

(注) ( ) は、直前の調査との比較である(単位：%)。

(3) 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合(第5図)

大学(昼間部)について家庭の年間収入額と家庭からの給付額の間関係を見てみると、家庭の年間収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く、また、学生生活費に対する家庭からの給付額の割合も高くなる傾向となっている。これらの傾向は、前回調査から変わっていない。

第5図 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合(大学(昼間部))



#### (4) 家庭の収入階層区別学生数(大学(昼間部))の割合 (L表)

総務省の家計調査(令和2年)から全国全世帯の45～54歳の世帯主(学生の家庭の世帯主年齢と想定)を抜き出し、その五分位階層区分(※)を推計し、これに大学(昼間部)の家庭の年間収入額別学生数を当てはめて各区別学生数の割合を見たところ、L表のとおりとなった。

国立・公立・私立のいずれにおいても第Ⅰ五分位に最も高い分布を示しており、前回調査と比較するとそれぞれ1.8ポイント増(国立)、3.2ポイント増(公立)、3.2ポイント増(私立)となっている。

(※) 集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ、その世帯数を5等分したもので、収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したものの。

L表 家庭の収入階層区別学生数の割合【45～54歳の世帯主】(大学(昼間部))

[単位:%]

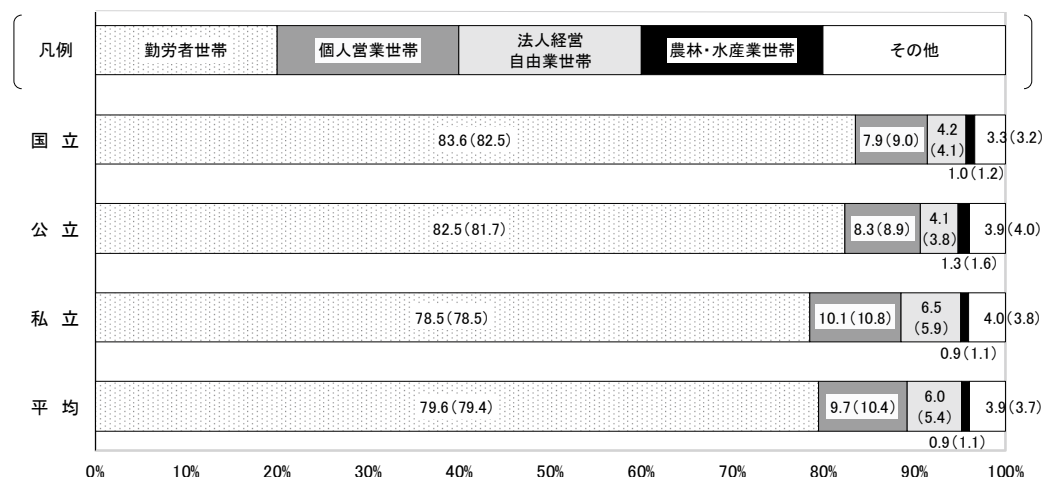
区分	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 (～5,121) 5,330千円未満	千円 (5,121～6,810) 5,330千円以上 7,076千円未満	千円 (6,810～8,487) 7,076千円以上 8,649千円未満	千円 (8,487～10,815) 8,649千円以上 10,991千円未満	千円 (10,815～) 10,991千円以上
国立	(23.0) 24.8	(13.9) 18.1	(19.3) 17.0	(22.0) 19.3	(21.7) 20.8
公立	(28.3) 31.5	(18.5) 19.0	(18.0) 17.0	(19.2) 17.9	(15.9) 14.6
私立	(24.4) 27.6	(15.9) 19.8	(19.1) 15.4	(21.0) 19.2	(19.6) 18.0
平均	(24.4) 27.4	(15.7) 19.5	(19.1) 15.7	(21.0) 19.1	(19.8) 18.3

(注) ( )は、平成30年度調査の額及び割合である。

#### (5) 主たる家計支持者の世帯区別学生数(大学(昼間部))の割合 (第6図)

主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合は、国立・公立・私立いずれも勤労者世帯の割合が高くなっており、前回調査と比較して、その傾向に変わりはない。

第6図 主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合(大学(昼間部))



(注) ( )は、平成30年度調査の割合である。



#### 4. アルバイトの従事状況

##### (1) アルバイトの従事状況 (M表、第7図)

調査時前の1年間においてアルバイトに従事した経験を有する者（以下「アルバイト従事者」という）の全学生に対する割合は、M表のとおりである。

アルバイト従事者の割合は、専門職学位課程を除き、すべての学校区分で前回調査より減少しており、大学（昼間部）5.4ポイント減、短期大学（昼間部）7.0ポイント減、修士課程2.3ポイント減、博士課程0.5ポイント減となっている。

アルバイト従事者の内訳を見てみると、「家庭からの給付のみで修学可能」とする者の割合が、大学（昼間部）49.1%、短期大学（昼間部）42.8%、修士課程44.5%であるのに対し、博士課程20.9%、専門職学位課程26.7%となっている。前回調査と比較すると、「家庭からの給付のみで修学可能」とする者の割合は大学（昼間部）、短期大学（昼間部）において減少しており、「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し」については、すべての学校区分で減少している。

次に、M表におけるアルバイト従事者を分母（100%）として、その経済状況の割合を表したものが第7図となる。大学（昼間部）、短期大学（昼間部）、修士課程及び専門職学位課程については、概ね5～6割が「家庭からの給付のみで修学可能」となっている一方、博士課程については、他の学校区分と比較して「家庭からの給付のみで修学可能」の割合が29.4%と低く、「家庭からの給付なし」の割合が42.9%と高くなっている。なお、大学（昼間部）を男女別に見たところ、大きな差は見られなかった。

M表 アルバイトの従事状況

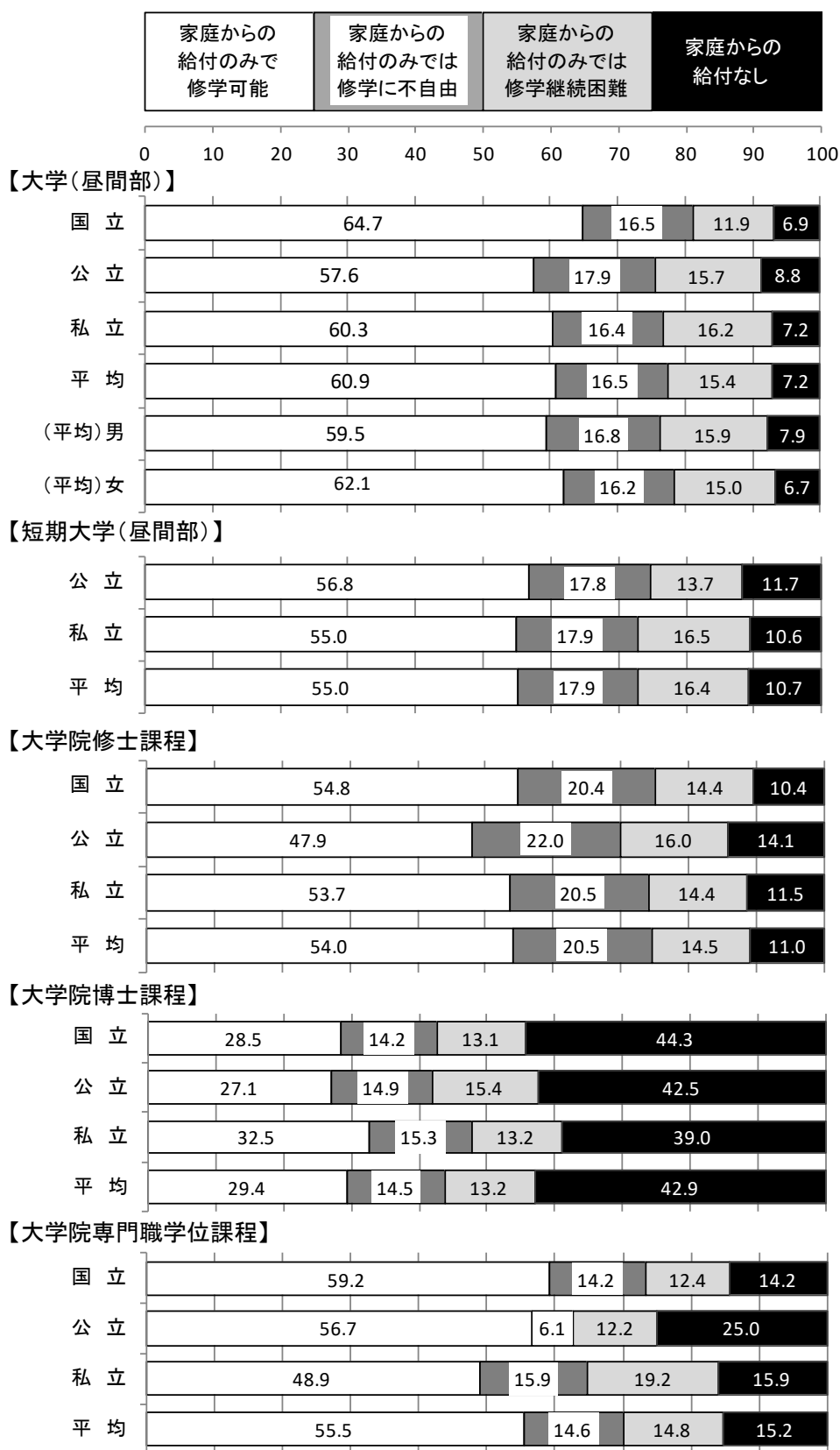
区 分		[単位:%]		
		平成 30年度	令和 2年度	
大 学 院	大 学 部 （ 昼 間 部 ）	アルバイト従事者	86.1	80.7 (Δ5.4)
		家庭からの給付のみで修学可能	52.0	49.1 (Δ2.9)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	34.1	31.5 (Δ2.6)
	アルバイト非従事者	13.9	19.3 (5.4)	
大 学 院	短 期 大 学 部 （ 昼 間 部 ）	アルバイト従事者	84.7	77.7 (Δ7.0)
		家庭からの給付のみで修学可能	47.0	42.8 (Δ4.2)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	37.7	35.0 (Δ2.7)
	アルバイト非従事者	15.3	22.3 (7.0)	
大 学 院	修 士 課 程	アルバイト従事者	84.8	82.5 (Δ2.3)
		家庭からの給付のみで修学可能	43.8	44.5 (0.7)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	41.0	38.0 (Δ3.0)
		アルバイト非従事者	15.2	17.5 (2.3)
	博 士 課 程	アルバイト従事者	71.6	71.1 (Δ0.5)
		家庭からの給付のみで修学可能	19.9	20.9 (1.0)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	51.7	50.2 (Δ1.5)
		アルバイト非従事者	28.4	28.9 (0.5)
	専 門 職 学 位 課 程	アルバイト従事者	47.8	48.2 (0.4)
		家庭からの給付のみで修学可能	23.0	26.7 (3.7)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	24.7	21.4 (Δ3.3)
		アルバイト非従事者	52.2	51.8 (Δ0.4)

(注)1. ( )は、直前の調査との増減である。

2. 大学院の「アルバイト従事者」には、TA(ティーチング・アシスタント)、RA(リサーチ・アシスタント)を含む。

第7図 アルバイト従事者の経済状況

[単位：%]



(注)1. 各図の数値は、学生生活調査集計表Ⅰ・大学・短期大学のH-1表、H-2表、同Ⅱ・大学院のH-1表、H-2表、H-3表を基に、全学生のうち、アルバイト従事者を100とした割合。  
 2. 大学院は、TA(ティーチングアシスタント)とRA(リサーチアシスタント)従事者を含む。

## (2) アルバイト従事時期別学生数の割合 (N表、第8図)

アルバイト従事時期別学生数の割合について、学校区分別に見てみると、平均では、大学院の「経常的」の割合が60%~70%台であるのに対し、大学(昼間部)、短期大学(昼間部)の「経常的」の割合は80%台となっており、大学(昼間部)、短期大学(昼間部)のほうが「経常的」に従事する割合が高くなっている。さらに、「経常的」の内訳を見ると、大学院では、専門職学位課程の長期休暇中を除き「週1、2日」の割合のほうが高い傾向であるのに対し、大学(昼間部)、短期大学(昼間部)では、「週3日以上」の割合のほうが高い傾向であり、特に長期休暇中ではその割合が高くなっている。また、「週3日以上」の割合をさらに設置者別に見てみると、大学(昼間部)では、公立・私立が国立と比較して6.5~9.2ポイント高くなっており、短期大学(昼間部)では、私立が公立と比較して4.4~7.5ポイント高くなっている。これらの傾向は前回調査から変わっていない。

授業期間中と長期休暇中の割合について比較したところ、「臨時的(不定期)」については、すべての学校区分において長期休暇中のほうが高くなっており、平均では、授業期間中よりも0.1~3.6ポイント高くなっている。

N表 アルバイト従事時期別学生数の割合

[単位:%]

区分	授業期間中					長期休暇中					
	臨時的 (不定期)	経常的		計	計	臨時的 (不定期)	経常的		計		
		週1、2日	週3日以上				週1、2日	週3日以上			
大学(昼間部)											
国立	16.0	43.2	40.9	84.1	100.0	18.6	26.0	55.4	81.4	100.0	
公立	13.0	38.7	48.3	87.0	100.0	15.8	21.1	63.1	84.2	100.0	
私立	13.6	38.9	47.4	86.3	100.0	15.0	20.4	64.6	85.0	100.0	
平均	14.0	39.6	46.4	86.0	100.0	15.7	21.4	63.0	84.4	100.0	
短期大学(昼間部)											
公立	16.4	39.9	43.6	83.5	100.0	20.7	20.7	58.6	79.3	100.0	
私立	13.6	38.3	48.0	86.3	100.0	15.8	18.1	66.1	84.2	100.0	
平均	13.7	38.4	47.8	86.2	100.0	16.0	18.2	65.8	84.0	100.0	
大学院	修士課程										
	国立	22.9	52.5	24.7	77.2	100.0	22.4	42.0	35.6	77.6	100.0
	公立	22.0	50.2	27.8	78.0	100.0	22.2	37.7	40.1	77.8	100.0
	私立	22.4	54.1	23.5	77.6	100.0	23.8	39.7	36.6	76.3	100.0
	平均	22.7	52.8	24.5	77.3	100.0	22.8	41.0	36.2	77.2	100.0
	博士課程										
	国立	21.1	53.9	25.0	78.9	100.0	23.1	50.1	26.8	76.9	100.0
	公立	26.2	46.0	27.8	73.8	100.0	29.1	37.5	33.5	71.0	100.0
	私立	20.5	53.3	26.3	79.6	100.0	24.3	46.3	29.3	75.6	100.0
	平均	21.2	53.3	25.5	78.8	100.0	23.8	48.2	28.0	76.2	100.0
専門職学位課程											
国立	22.2	45.1	32.8	77.9	100.0	26.7	30.2	43.1	73.3	100.0	
公立	64.7	7.1	28.2	35.3	100.0	54.2	7.6	38.2	45.8	100.0	
私立	35.0	45.2	19.7	64.9	100.0	37.7	34.7	27.6	62.3	100.0	
平均	28.0	43.9	28.2	72.1	100.0	31.6	31.2	37.2	68.4	100.0	

(注)大学院は、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)従事者を含まない。

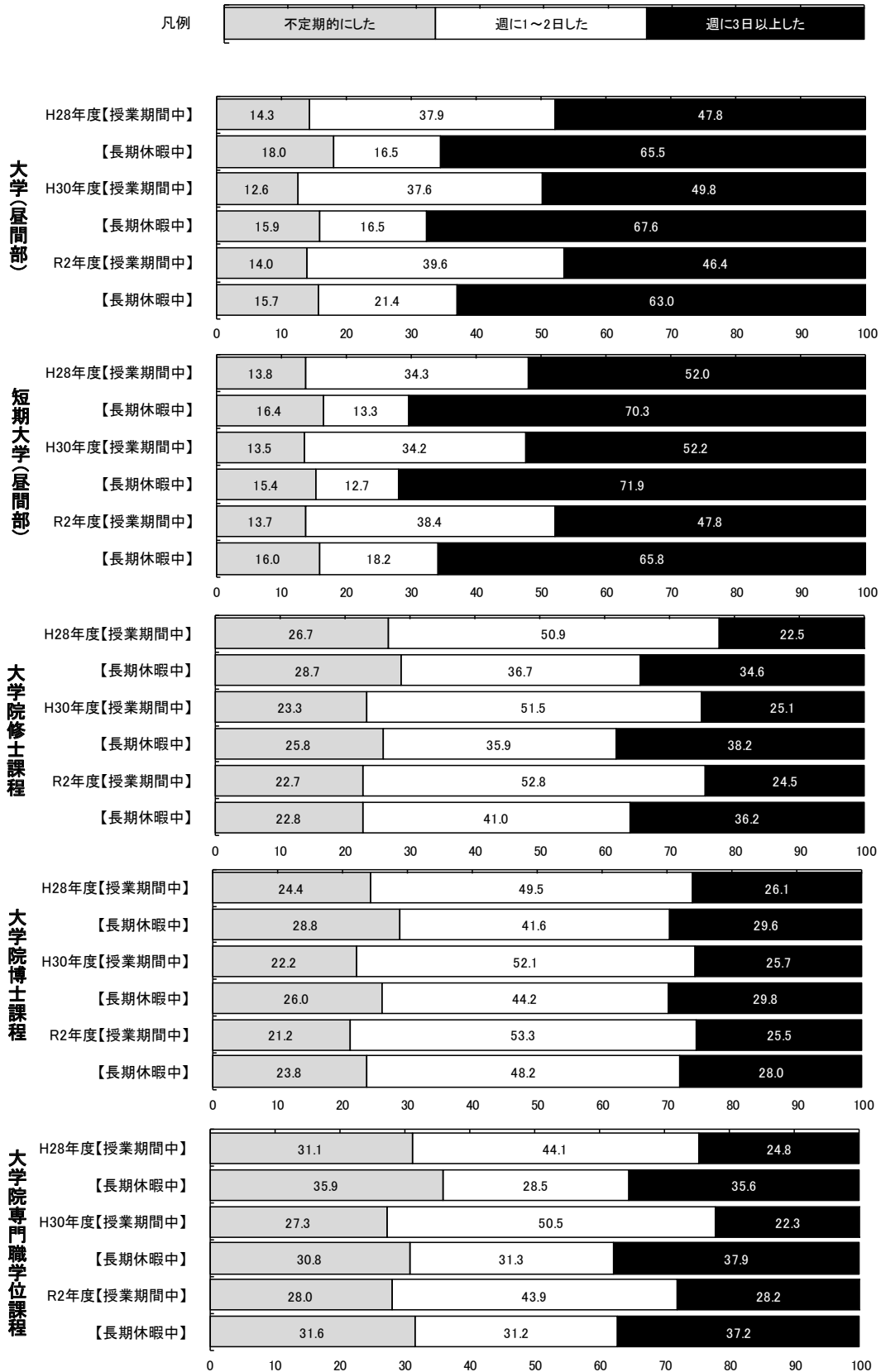
【参考】平成30年度 大学(昼間部)

[単位:%]

区分	授業期間中					長期休暇中				
	臨時的 (不定期)	経常的		計	計	臨時的 (不定期)	経常的		計	
		週1、2日	週3日以上				週1、2日	週3日以上		
大学(昼間部)										
国立	14.4	41.9	43.7	85.6	100.0	19.5	22.7	57.8	80.5	100.0
公立	11.1	35.0	53.8	88.8	100.0	15.5	14.6	69.9	84.5	100.0
私立	12.3	36.8	50.8	87.6	100.0	15.2	15.3	69.5	84.8	100.0
平均	12.6	37.6	49.8	87.4	100.0	15.9	16.5	67.6	84.1	100.0

第8図 アルバイト従事時期別学生数の割合の推移

[単位: %]



(注) 大学院は、T A (ティーチングアシスタント) 及び R A (リサーチアシスタント) 従事者を含まない。

### (3) アルバイト従事職種別学生数の割合 (O表)

アルバイト従事職種は、調査時前の1年間においてアルバイトに従事した者について、授業期間中・長期休暇中別に関わらず従事した主な職種一つを質問したものである。

アルバイト従事職種別の学生数の割合について、授業期間中・長期休暇中別に見てみると、短期大学(昼間部)では、「軽労働」が授業期間中89.2%・長期休暇中89.2%と9割程度を占めているのに対し、大学院では「軽労働」は5割以下であり、特に博士課程では同12.2%・13.1%となっている。「特殊技能その他」は、博士課程で6割を超えているのに対し、大学(昼間部)、短期大学(昼間部)では1割未満となっている。また、「家庭教師」については、修士課程、専門職学位課程で2割を超えているのに対し、短期大学(昼間部)では1割未満である。

次に、大学(昼間部)を設置者別に見てみると、「家庭教師」は、国立が3割近くであるのに対し、公立は2割未満、私立は1割程度となっている。一方で、「軽労働」では、国立が6割程度であるのに対し、公立・私立は7割を超えている。なお、平均について前回調査と比較したところ、大きな変化は見られなかった。

O表 アルバイト従事職種別学生数の割合

[単位:%]

区分	家庭教師	事務						軽労働 (合計)	重労働・ 危険作業			特殊技能 その他 (合計)	計	
			販売	飲食業	販売・飲 食業を除 く軽労働	特殊技能	その他							
大学 (昼間部)	国立	授業期間中	28.7	3.8	18.0	36.5	5.3	59.8	0.9	1.2	5.5	6.7	100.0	
		長期休暇中	29.1	3.8	18.2	36.0	5.6	59.8	1.0	1.2	5.1	6.3	100.0	
	公立	授業期間中	17.5	2.9	24.2	41.8	5.8	71.8	1.0	0.8	6.1	6.9	100.0	
		長期休暇中	17.7	2.9	24.4	41.4	6.0	71.8	1.0	0.7	5.8	6.5	100.0	
	私立	授業期間中	10.0	2.5	27.0	44.7	6.4	78.1	1.4	1.0	7.1	8.1	100.0	
		長期休暇中	9.8	2.4	27.1	44.5	6.7	78.3	1.4	1.0	7.1	8.1	100.0	
	平均		授業期間中	13.6	2.7	25.3	43.2	6.2	74.7	1.3	1.0	6.7	7.7	100.0
			長期休暇中	13.4	2.6	25.5	42.9	6.5	74.9	1.3	1.0	6.7	7.7	100.0
短期大学(昼間部)		授業期間中	1.8	1.1	30.2	54.7	4.3	89.2	0.9	0.2	6.8	7.0	100.0	
		長期休暇中	1.8	0.9	30.1	54.7	4.4	89.2	1.1	0.3	6.6	6.9	100.0	
大 学 院	修士課程		授業期間中	23.9	7.1	16.2	25.2	6.7	48.1	0.9	5.5	14.4	19.9	100.0
			長期休暇中	23.7	6.9	16.7	25.9	6.8	49.4	1.1	5.5	13.4	18.9	100.0
	博士課程		授業期間中	16.8	8.6	4.3	5.1	2.8	12.2	0.8	18.3	43.3	61.6	100.0
			長期休暇中	16.2	8.6	4.7	5.1	3.3	13.1	0.8	18.8	42.5	61.3	100.0
	専門職学位課程		授業期間中	26.6	11.8	14.2	15.4	7.6	37.2	1.0	3.6	19.7	23.3	100.0
			長期休暇中	25.7	12.2	14.3	15.8	7.9	38.0	1.0	3.9	19.3	23.2	100.0

(注)1. 家庭教師には、塾講師などを含む。

2. 大学院は、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)従事者を含まない。

【参考】平成30年度調査結果

[単位:%]

区分	家庭教師	事務						軽労働 (合計)	重労働・ 危険作業			特殊技能 その他 (合計)	計
			販売	飲食業	販売・飲 食業を除 く軽労働	特殊技能	その他						
大学(昼間部)		授業期間中	12.8	2.9	24.3	42.9	6.6	73.8	1.4	1.2	7.9	9.1	100.0
		長期休暇中	12.6	2.8	24.4	42.4	7.0	73.8	1.7	1.3	7.8	9.1	100.0

## 5. 奨学金の受給希望及び受給状況

### (1) 学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況（第9図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構、地方公共団体、民間団体、学校からの奨学金受給者をいう）の割合について、学校区分別（平均）で比較したところ、「受給者」は、短期大学（昼間部）で56.9%と最も高くなっており、それ以外の区分では、専門職学位課程を除いて概ね50%前後となっている。

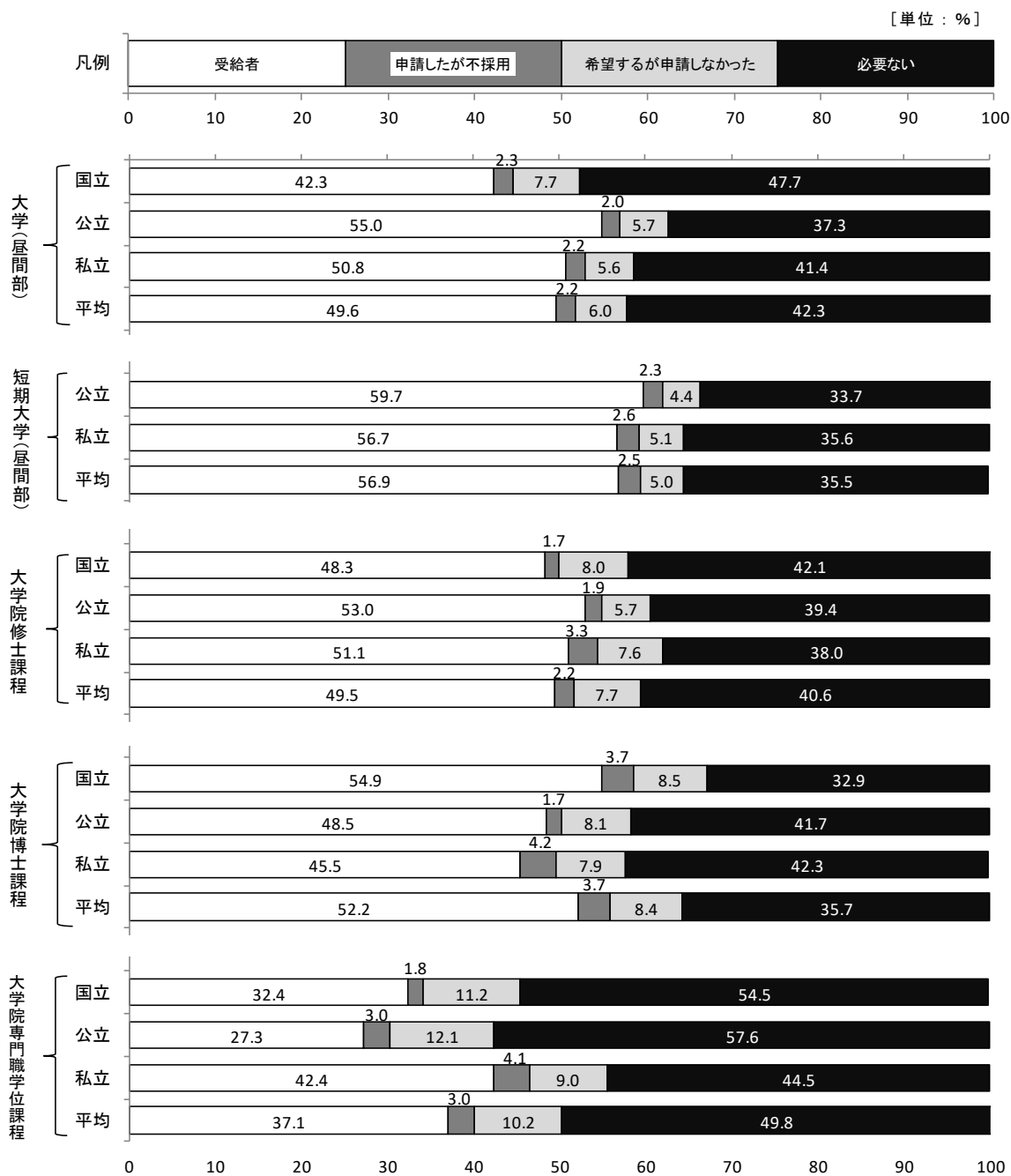
「受給者」の割合について、さらに設置者別に比較したところ、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）及び修士課程では公立が最も高く、それぞれ55.0%、59.7%、53.0%となっている。博士課程では国立が最も高く54.9%、専門職学位課程では私立が最も高く42.4%となっている。

次に、「申請したが不採用」では、大学（昼間部）2.2%、短期大学（昼間部）2.5%、修士課程2.2%であるのに対して、博士課程、専門職学位課程では3.0~3.7%と、やや割合が高くなっている。「希望するが申請しなかった」については、大学（昼間部）6.0%、短期大学（昼間部）5.0%であるのに対して、大学院では7.7~10.2%と、やや割合が高くなっている。

「受給者」「申請したが不採用」「希望するが申請しなかった」の合計を奨学金受給希望者とする、その割合は、大学（昼間部）57.8%、短期大学（昼間部）64.4%、修士課程59.4%、博士課程64.3%、専門職学位課程50.3%となっており、いずれの学校区分も50%~60%台の割合となっている。

なお、「受給者」「申請したが不採用」の合計を奨学金申請者として、奨学金申請者を分母とした「受給者」の割合を見てみると、大学（昼間部）95.8%、短期大学（昼間部）95.8%、修士課程95.7%、博士課程93.4%、専門職学位課程92.5%となっている。

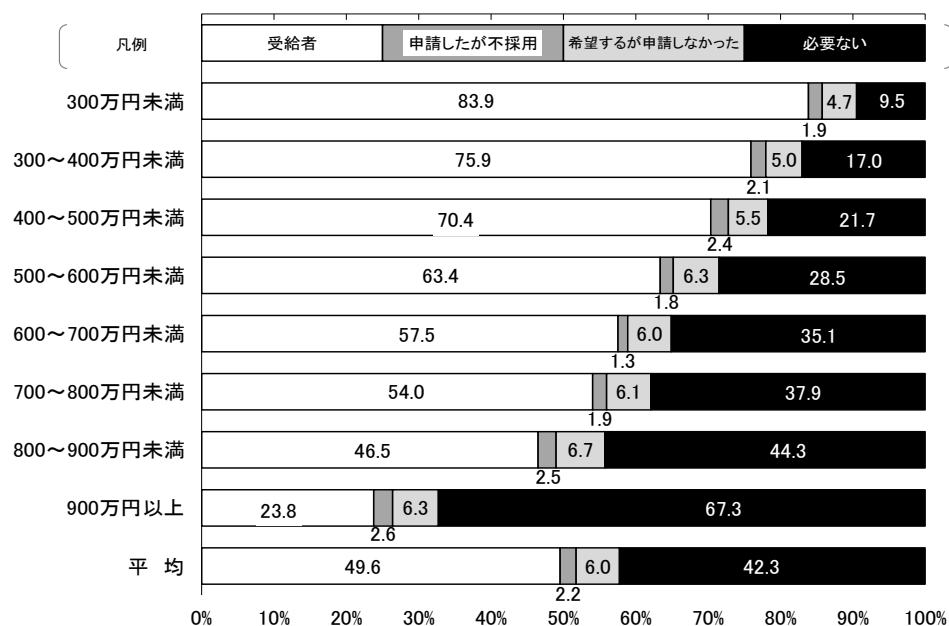
第9図 学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況



(2) 家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況 (第10図)

大学(昼間部)について家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況を見てみると、家庭の年間収入が高くなるにつれて「受給者」の割合は低くなっている。なお、「申請したが不採用」「希望するが申請をしなかった」については、家庭の年間収入による大きな差は見られない。

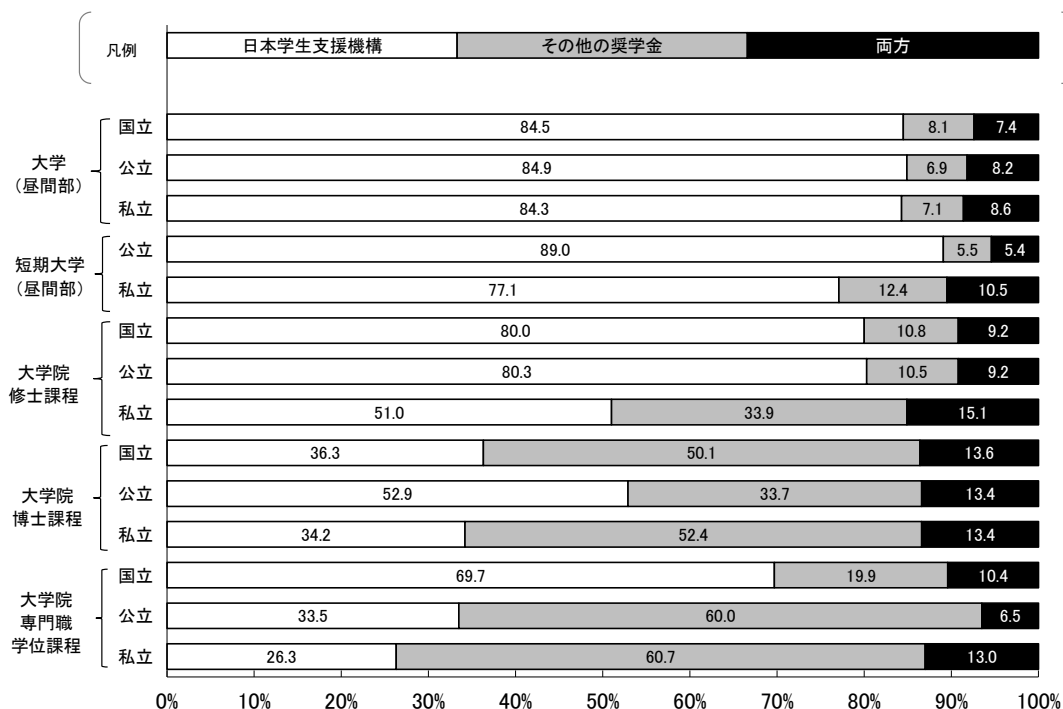
第 10 図 家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況(大学(昼間部))



(3) 奨学金の種類別・設置者別受給状況 (第 11 図)

奨学金の種類別受給状況を設置者別に見てみると、すべての学校区分において、日本学生支援機構以外の奨学金を受給(「その他の奨学金」と「両方」の合計)している者の割合は、私立が最も高くなっている。また、その割合は大学(昼間部)、短期大学(昼間部)より大学院のほうが高くなっており、それぞれ修士課程私立 49.0%、博士課程私立 65.8%、専門職学位課程私立 73.7%となっている。

第 11 図 奨学金の種類別・設置者別受給状況





## 6. 居住形態別・地域別通学時間（第12図、P表）

居住形態別の通学時間（片道の通学時間）について、「自宅」からの通学者では、すべての学校区分において「31～60分」と回答した者の割合が最も高く、次いで博士課程を除き「61～90分」と回答した者の割合が高くなっている。通学時間が61分以上の者は、大学（昼間部）で52.6%、修士課程で49.4%と高い割合となっている。

「学寮」からの通学者では、すべての学校区分において「0～10分」と回答した者の割合が最も高く、いずれも6割を超えており、その割合が最も高い専門職学位課程では74.4%となっている。

「アパート等」からの通学者については、通学時間が20分以下である者の割合が、すべての学校区分において6割を超えており、特に、大学（昼間部）は78.6%、短期大学（昼間部）は72.7%、修士課程は78.4%と7割を超えている。

次に、大学（昼間部）について地域別に見てみると、「自宅」からの通学者では、通学時間が61分以上であるものの割合は、東京圏59.4%、京阪神57.0%、その他43.6%となっており、東京圏のほうがその他より15.8ポイント高くなっている。

「学寮」からの通学者では、「0～10分」と回答した者の割合は、東京圏65.8%、京阪神50.7%、その他69.1%となっており、京阪神よりその他のほうが18.4ポイント高くなっている。

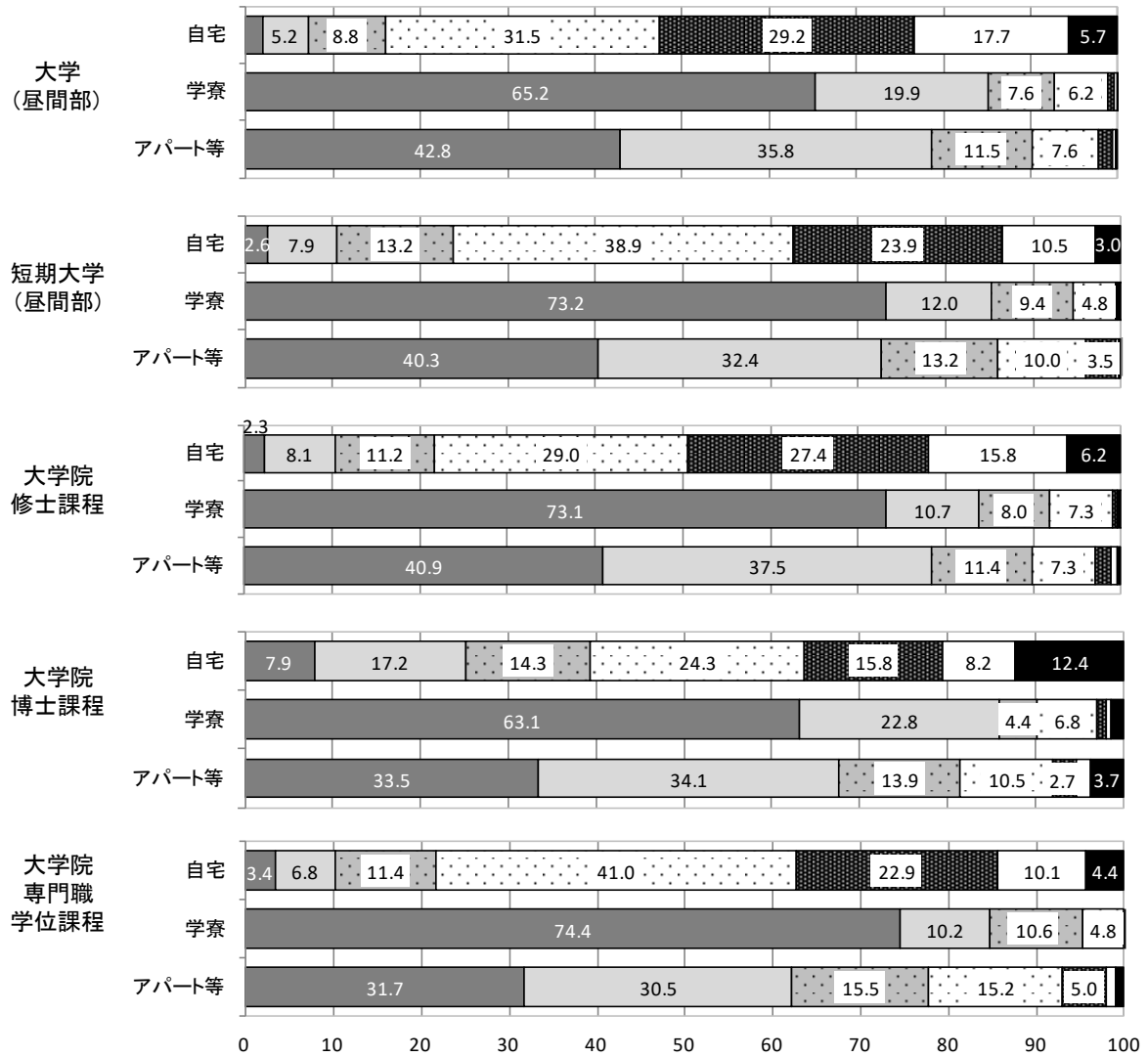
「アパート等」からの通学者については、通学時間が20分以下である者の割合が、東京圏60.5%、京阪神77.5%、その他86.5%となっており、東京圏よりその他のほうが26.0ポイント高くなっている。

なお、大学（昼間部）の全国平均について前回調査と比較したところ、「学寮」からの通学者で「0～10分」と回答した者の割合が、6.7ポイント高くなっている。

第12図 居住形態別片道通学時間

0～10分 11～20分 21～30分 31～60分 61～90分 91～120分 121分～

[単位: %]



P表 居住形態別・地域別片道通学時間(大学(昼間部))

[単位: %]

区分			0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計
令和2年度	自宅	東京圏	1.2	2.7	5.5	31.3	32.9	19.8	6.7	100.0
		京阪神	1.5	3.7	7.9	30.0	31.3	19.5	6.2	100.0
		その他	2.8	8.5	12.6	32.5	24.4	14.7	4.5	100.0
		全国	1.9	5.2	8.8	31.5	29.2	17.7	5.7	100.0
	学寮	東京圏	65.8	13.8	8.4	9.8	1.1	0.7	0.3	100.0
		京阪神	50.7	32.4	10.2	6.8	-	-	-	100.0
		その他	69.1	21.6	5.9	2.8	0.5	0.1	-	100.0
		全国	65.2	19.9	7.6	6.2	0.7	0.3	0.1	100.0
	アパート等	東京圏	25.1	35.4	17.5	17.7	3.6	0.4	0.3	100.0
		京阪神	39.5	38.0	11.0	7.8	2.3	0.9	0.4	100.0
		その他	51.1	35.4	9.2	3.3	0.8	0.2	0.1	100.0
		全国	42.8	35.8	11.5	7.6	1.7	0.4	0.2	100.0
(参考) 平成30年度	自宅	全国	1.6	5.0	8.5	31.2	29.4	18.7	5.7	100.0
	学寮	全国	58.5	20.4	9.0	9.5	1.8	0.8	-	100.0
	アパート等	全国	44.2	33.1	12.1	8.4	1.6	0.6	0.1	100.0

## 7. 週間平均生活時間（Q表）

週間平均生活時間は、「授業期間中の典型的な1週間（7日間）の生活時間」を質問したものである。なお、前回調査から一部の選択肢の表記を変更している。（※）

※大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では、前回調査の「1.大学の授業」「2.大学の授業の予習・復習など」を、それぞれ「1.大学の授業（オンライン授業の視聴時間を含む）」「2.大学の授業の予習・復習、課題など」に変更した。

※修士課程、博士課程及び専門職学位課程では、「1.大学内での授業、研究、実習、実験」を、「1.大学内での授業、研究、実習、実験（オンライン授業の視聴時間を含む）」に変更した。

### ①大学（昼間部）・短期大学（昼間部）

「大学の授業の予習・復習、課題など」については、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）とも「1～5時間」と回答した者の割合が4割を超えている。また、「卒業論文・卒業研究」「部活動・サークル活動」「就職活動」について、「0時間」と回答した者の割合が6割を超える状況となっている。

このうち、「卒業論文・卒業研究」「就職活動」については、いずれも「0時間」と回答した者の割合が概ね70%～80%となっているが、これを3年次及び4年次のみ（大学（昼間部））、1年次及び2年次のみ（短期大学（昼間部））について見ると、「卒業論文・卒業研究」は、大学（昼間部）4年次では19.0%、短期大学（昼間部）2年次では51.0%と全学年の平均と比較して低くなっている。次に、「就職活動」について見てみると、大学（昼間部）4年次では全学年の平均と大きく変わらないが、3年次では51.2%と低く、短期大学（昼間部）では1年次89.1%と比較して2年次52.6%と低くなっている。

前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ、「大学の授業の予習・復習、課題など」を週6時間以上と回答した者の割合が23.0ポイント増加した一方、「部活動・サークル活動」は5.6ポイント減少、「アルバイト・定職」も5.6ポイント減少している。

### ②大学院

「大学内での授業、研究、実習、実験（オンライン授業の視聴時間を含む）」については、修士課程、博士課程では「31時間以上」と回答した者の割合が最も高くなっており、修士課程38.1%、博士課程35.0%となっている。また、「大学外での学習、研究」を週6時間以上と回答した者の割合は、それぞれ修士課程49.9%、博士課程51.6%、専門職学位課程73.4%となっている。

「アルバイト・定職」について、「31時間以上」と回答した者の割合は、博士課程26.8%、専門職学位課程32.7%と、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）及び修士課程よりも高くなっている。



[単位: %]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学院修士課程	大学内での授業、研究、実習、実験 (オンライン授業の視聴時間を含む)	1.8	12.7	14.5	9.6	8.4	7.1	7.4	38.1	0.5	100.0
	大学外での学習、研究	20.6	28.0	18.0	10.3	7.2	4.6	2.7	7.1	1.5	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	61.4	27.7	6.6	1.2	0.4	0.1	0.0	0.0	2.4	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	92.8	2.0	0.8	0.5	0.3	0.2	0.1	0.2	3.3	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	37.8	12.5	17.7	11.5	6.8	2.7	1.4	8.2	1.3	100.0
	就職活動	59.3	23.0	8.5	3.8	1.5	0.5	0.3	0.6	2.4	100.0
	娯楽・交友	4.9	28.8	26.1	15.7	8.7	5.1	2.5	6.0	2.2	100.0
大学院博士課程	大学内での授業、研究、実習、実験 (オンライン授業の視聴時間を含む)	9.9	23.4	10.5	5.6	5.2	4.9	4.5	35.0	1.1	100.0
	大学外での学習、研究	24.3	21.8	15.6	9.5	6.3	4.4	2.9	12.9	2.2	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	73.4	16.1	4.3	1.1	0.6	0.2	0.1	0.2	4.1	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	73.1	8.4	5.9	3.5	2.7	0.8	0.5	1.2	4.0	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	35.1	6.0	9.6	6.7	6.4	3.9	3.3	26.8	2.3	100.0
	就職活動	86.5	6.7	1.7	0.5	0.2	0.1	0.0	0.3	4.0	100.0
	娯楽・交友	10.2	31.8	24.5	14.0	6.8	3.4	2.0	3.8	3.6	100.0
大学院専門職学位課程	大学内での授業、研究、実習、実験 (オンライン授業の視聴時間を含む)	1.6	19.0	26.4	22.3	13.0	5.2	3.3	8.8	0.5	100.0
	大学外での学習、研究	7.9	15.8	21.6	15.6	11.5	6.5	4.7	13.5	2.9	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	84.7	5.4	0.5	0.0	0.2	0.0	-	0.0	9.0	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	88.6	1.7	0.3	0.1	0.1	0.0	-	-	9.3	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	38.6	6.1	7.8	4.4	2.7	1.6	1.1	32.7	5.0	100.0
	就職活動	82.1	6.4	1.4	0.7	0.2	0.1	-	0.4	8.8	100.0
	娯楽・交友	8.6	34.3	26.8	11.7	6.1	2.6	1.1	2.3	6.4	100.0

## 8. 大学の学生支援体制への満足度(R表)

大学の学生支援体制の満足度については、R表のとおりである。

「利用したことがある」と回答した者のうち、「満足」「やや満足」と回答した者の割合を学校区分別に比較すると、いずれも短期大学（昼間部）の割合が最も高く、博士課程の割合が最も低くなっている。項目別に見ると、「図書館・自習室などの学習支援施設」では、「満足」又は「やや満足」と回答した者の割合は、すべての学校区分において6割を超えており、短期大学（昼間部）では、「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」についても5割を超えている。

「利用したことがない」と回答した者の割合を見たところ、「図書館・自習室などの学習支援施設」は、すべての学校区分で9.2～19.0%と低いが、「図書館・自習室などの学習支援施設」以外では、すべての学校区分において、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「利用したことがない」の中では、いずれも「利用したことがない」と回答した者の割合が最も高くなっている。

「利用したことがない」と回答した者の割合を学校区分別に比較してみると、「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」では、すべての学校区分で概ね30%～40%となっているが、「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」では、専門職学位課程の割合が最も高く、73.9%となっている。

R表 大学の学生支援体制への満足度

[単位:%]

区分	利用したことがある				計	利用したことがない	無回答	
	満足	やや満足	やや不満	不満				
図書館・自習室 などの学習支援施設	大学 (昼間部)	(84.9) 32.9	37.6	(15.1) 9.3	3.2	(100.0) 83.0	16.8	0.1
	短期大学 (昼間部)	(90.3) 41.0	32.0	(9.7) 6.3	1.5	(100.0) 80.8	19.0	0.1
	大学院 修士課程	(81.4) 34.1	39.8	(18.6) 12.9	4.0	(100.0) 90.8	9.2	0.1
	大学院 博士課程	(79.5) 30.0	34.3	(20.5) 12.4	4.2	(100.0) 80.9	19.0	0.1
	大学院 専門職学位課程	(79.6) 33.3	32.3	(20.4) 12.7	4.1	(100.0) 82.4	17.6	-
	大学 (昼間部)	(80.0) 12.8	21.7	(20.0) 6.4	2.2	(100.0) 43.1	56.8	0.1
キャリアセンター などでの就職・進路 への支援	短期大学 (昼間部)	(88.9) 31.0	26.0	(11.1) 5.7	1.4	(100.0) 64.1	35.7	0.2
	大学院 修士課程	(74.4) 12.3	24.9	(25.6) 9.9	2.9	(100.0) 50.0	49.9	0.1
	大学院 博士課程	(66.2) 5.6	11.8	(33.8) 5.7	3.2	(100.0) 26.3	73.7	0.1
	大学院 専門職学位課程	(74.8) 7.9	11.7	(25.2) 4.6	2.0	(100.0) 26.2	73.9	-
	大学 (昼間部)	(77.0) 10.0	18.5	(23.0) 6.2	2.3	(100.0) 37.0	62.9	0.1
	学習・生活面での カウンセリング	短期大学 (昼間部)	(86.6) 19.5	23.8	(13.4) 5.4	1.3	(100.0) 50.0	50.0
大学院 修士課程		(73.6) 9.8	16.7	(26.4) 6.8	2.7	(100.0) 36.0	63.9	0.1
大学院 博士課程		(69.0) 7.4	13.1	(31.0) 5.7	3.5	(100.0) 29.7	70.3	0.0
大学院 専門職学位課程		(81.2) 14.7	19.8	(18.8) 5.8	2.2	(100.0) 42.5	57.5	0.0
大学 (昼間部)		(79.4) 17.4	28.8	(20.6) 9.3	2.7	(100.0) 58.2	41.6	0.1
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供		短期大学 (昼間部)	(87.9) 29.4	27.8	(12.1) 6.6	1.3	(100.0) 65.1	34.7
	大学院 修士課程	(73.5) 16.8	29.5	(26.5) 12.9	3.8	(100.0) 63.0	36.8	0.1
	大学院 博士課程	(69.1) 14.1	25.0	(30.9) 12.8	4.7	(100.0) 56.6	43.3	0.1
	大学院 専門職学位課程	(79.8) 21.6	20.2	(20.2) 8.0	2.6	(100.0) 52.4	47.4	0.2

(注) ( )は、「利用したことがある」を100として算出した割合である。

## 9. 学生の不安や悩み(S表)

学生の不安や悩みについて、「大いにある」「少しある」と回答した者の割合を見たところ、すべての学校区分において「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」が最も高い割合を示している。一方、「大いにある」「少しある」と回答した者の割合が最も低かったのは、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では「経済的に勉強を続けることが難しい」で、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」との差は、大学（昼間部）57.1ポイント、短期大学（昼間部）49.9ポイントとなっており、大学院では「学内の友人関係の悩みがある」で、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」との差は、修士課程38.0ポイント、博士課程33.4ポイント、専門職学位課程22.5ポイントとなっている。

なお、前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」を「大いにある」と回答した者の割合は3.6ポイント増加しており、「学内の友人関係の悩みがある」を「全くない」と回答した者の割合は4.7ポイント増加している。

S表 学生の不安や悩み

[単位: %]

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていけない	大学(昼間部)	4.3	28.6	40.7	26.4	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	3.0	27.6	44.9	24.5	0.0	100.0
	大学院修士課程	2.1	16.1	38.2	43.6	0.1	100.0
	大学院博士課程	2.7	11.8	29.4	55.9	0.1	100.0
	大学院専門職学位課程	3.4	24.8	40.0	31.9	-	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	大学(昼間部)	13.7	28.3	28.8	29.1	0.0	100.0
	短期大学(昼間部)	8.1	20.8	31.2	39.9	0.0	100.0
	大学院修士課程	5.9	20.0	29.4	44.7	0.0	100.0
	大学院博士課程	3.6	12.7	25.1	58.6	0.1	100.0
	大学院専門職学位課程	3.2	13.5	25.4	57.8	0.1	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	大学(昼間部)	33.0	37.4	14.2	15.3	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	25.4	35.8	16.9	21.9	0.1	100.0
	大学院修士課程	23.6	25.1	14.5	36.7	0.1	100.0
	大学院博士課程	19.8	21.5	16.0	42.5	0.1	100.0
	大学院専門職学位課程	14.7	18.3	16.7	50.2	0.1	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	大学(昼間部)	1.9	11.4	37.6	49.0	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	1.8	9.5	36.8	51.8	0.1	100.0
	大学院修士課程	3.6	14.0	29.9	52.4	0.1	100.0
	大学院博士課程	5.9	17.8	27.7	48.6	0.0	100.0
	大学院専門職学位課程	3.1	11.6	26.2	59.0	0.1	100.0
学内の友人関係の悩みがある	大学(昼間部)	2.9	11.5	31.4	54.2	0.0	100.0
	短期大学(昼間部)	2.7	10.7	30.8	55.8	0.0	100.0
	大学院修士課程	2.2	8.5	25.3	64.0	0.1	100.0
	大学院博士課程	1.8	6.1	23.0	69.0	0.0	100.0
	大学院専門職学位課程	2.4	8.1	24.7	64.9	-	100.0

(参考)平成30年度調査

[単位: %]

区 分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
大学 (昼間部)	授業の内容についていけない	3.9	27.7	41.3	27.1	0.1	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	12.7	28.1	28.9	30.3	0.1	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	29.4	38.3	15.3	16.9	0.1	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	2.3	11.5	37.4	48.7	0.1	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	3.0	12.8	34.7	49.5	0.0	100.0

④ 表 居住形態別・設置者別の学生生活費

区分	自 宅		下宿、アパート、その他		全居住形態平均	
	学 費	生活費	学 費	生活費	学 費	生活費
国立	632,900 円 (△9.5%)	354,200 円 (△16.3%)	987,100 円 (△12.0%)	579,000 円 (△5.7%)	1,142,800 円 (△0.8%)	1,721,800 円 (△2.5%)
公立	642,800 (△9.7%)	350,200 (△16.4%)	993,000 (△12.1%)	575,700 (△8.6%)	1,113,300 (5.8%)	1,689,000 (0.4%)
私立	1,312,800 (△4.5%)	392,000 (△10.1%)	1,704,800 (△5.9%)	1,322,700 (△5.2%)	1,091,600 (△0.8%)	2,414,300 (△3.2%)
平均	1,215,000 (△5.1%)	386,500 (△11.0%)	1,601,500 (△6.6%)	1,042,600 (△6.0%)	1,108,400 (△0.3%)	2,151,000 (△3.2%)
国立	...	...	...	...	...	...
公立	522,900 (△5.9%)	325,000 (△4.3%)	847,900 (△5.3%)	448,000 (△5.4%)	934,100 (7.7%)	1,382,100 (3.1%)
私立	1,111,500 (△2.7%)	360,900 (△7.3%)	1,472,400 (△3.9%)	1,025,800 (△4.1%)	996,500 (△1.3%)	2,022,300 (△2.7%)
平均	1,091,900 (△2.7%)	359,700 (△7.2%)	1,451,600 (△3.9%)	956,000 (△4.1%)	989,000 (△0.4%)	1,945,000 (△2.2%)
国立	642,600 (△4.5%)	522,800 (△7.6%)	1,165,400 (△5.9%)	559,200 (△2.6%)	1,329,400 (0.3%)	1,888,600 (△0.6%)
公立	675,900 (△6.5%)	590,300 (3.9%)	1,266,200 (△1.9%)	581,100 (△7.4%)	1,256,600 (△1.8%)	1,837,700 (△3.7%)
私立	1,105,800 (△5.2%)	584,200 (△1.5%)	1,690,000 (△3.9%)	1,035,800 (△1.5%)	1,330,500 (△3.1%)	2,366,300 (△2.4%)
平均	862,600 (△5.3%)	556,200 (△3.9%)	1,418,800 (△4.8%)	671,100 (△2.3%)	1,325,100 (△0.6%)	1,996,200 (△1.2%)
国立	659,400 (△4.9%)	1,203,600 (1.1%)	1,863,000 (△1.1%)	519,000 (△3.0%)	1,834,700 (0.0%)	2,353,700 (△0.7%)
公立	786,100 (0.4%)	1,550,000 (4.8%)	2,336,100 (3.3%)	607,900 (△12.1%)	2,211,200 (2.8%)	2,819,100 (△0.8%)
私立	868,900 (△10.1%)	1,278,000 (6.7%)	2,146,900 (△0.8%)	818,200 (△3.6%)	1,930,200 (△7.8%)	2,648,400 (△6.5%)
平均	739,100 (△7.5%)	1,252,500 (3.4%)	1,991,600 (△0.9%)	583,400 (△3.8%)	1,856,200 (△1.2%)	2,439,600 (△1.8%)
国立	707,200 (△5.4%)	743,600 (3.0%)	1,450,800 (△1.3%)	645,100 (△6.5%)	1,391,600 (△1.3%)	2,036,700 (△3.0%)
公立	789,200 (△3.5%)	1,765,000 (12.3%)	2,554,200 (6.9%)	714,500 (△2.4%)	2,096,800 (△1.2%)	2,811,300 (△1.5%)
私立	1,343,600 (△2.1%)	1,163,900 (7.4%)	2,507,500 (2.1%)	1,219,200 (△5.9%)	1,623,400 (△1.6%)	2,842,600 (△3.5%)
平均	1,072,800 (△5.8%)	1,018,700 (4.3%)	2,091,500 (△1.1%)	879,500 (△10.8%)	1,500,400 (△3.0%)	2,379,900 (△6.0%)
国立	592,000 円 (△7.2%)	839,800 円 (△5.2%)	1,431,800 円 (△6.0%)	592,000 円 (△7.2%)	839,800 円 (△5.2%)	1,431,800 円 (△6.0%)
公立	605,000 (△9.3%)	767,900 (△0.0%)	1,372,900 (△4.3%)	605,000 (△9.3%)	767,900 (△0.0%)	1,372,900 (△4.3%)
私立	1,310,700 (△4.6%)	617,900 (△6.3%)	1,928,600 (△5.2%)	1,310,700 (△4.6%)	617,900 (△6.3%)	1,928,600 (△5.2%)
平均	1,148,700 (△5.0%)	664,300 (△5.7%)	1,813,000 (△5.3%)	1,148,700 (△5.0%)	664,300 (△5.7%)	1,813,000 (△5.3%)
国立	...	...	...	...	...	...
公立	484,300 (△5.1%)	605,400 (1.0%)	1,089,700 (△1.8%)	484,300 (△5.1%)	605,400 (1.0%)	1,089,700 (△1.8%)
私立	1,092,600 (△2.6%)	488,300 (△8.6%)	1,580,900 (△4.6%)	1,092,600 (△2.6%)	488,300 (△8.6%)	1,580,900 (△4.6%)
平均	1,061,700 (△2.6%)	494,200 (△8.1%)	1,555,900 (△4.4%)	1,061,700 (△2.6%)	494,200 (△8.1%)	1,555,900 (△4.4%)
国立	583,200 (△3.0%)	1,065,900 (△1.3%)	1,649,100 (△1.9%)	583,200 (△3.0%)	1,065,900 (△1.3%)	1,649,100 (△1.9%)
公立	620,300 (△7.7%)	966,600 (4.8%)	1,586,900 (△0.5%)	620,300 (△7.7%)	966,600 (4.8%)	1,586,900 (△0.5%)
私立	1,073,600 (△4.2%)	896,300 (△0.9%)	1,969,900 (△2.7%)	1,073,600 (△4.2%)	896,300 (△0.9%)	1,969,900 (△2.7%)
平均	746,900 (△3.8%)	1,003,700 (△0.8%)	1,750,600 (△2.1%)	746,900 (△3.8%)	1,003,700 (△0.8%)	1,750,600 (△2.1%)
国立	560,100 (△3.1%)	1,616,100 (△0.7%)	2,176,200 (△1.3%)	560,100 (△3.1%)	1,616,100 (△0.7%)	2,176,200 (△1.3%)
公立	681,400 (△6.0%)	1,930,600 (5.8%)	2,612,000 (2.4%)	681,400 (△6.0%)	1,930,600 (5.8%)	2,612,000 (2.4%)
私立	838,900 (△7.3%)	1,545,700 (△3.4%)	2,384,600 (△4.8%)	838,900 (△7.3%)	1,545,700 (△3.4%)	2,384,600 (△4.8%)
平均	636,400 (△5.0%)	1,617,900 (△0.8%)	2,254,300 (△2.0%)	636,400 (△5.0%)	1,617,900 (△0.8%)	2,254,300 (△2.0%)
国立	654,000 (△6.6%)	1,087,000 (△1.4%)	1,741,000 (△3.4%)	654,000 (△6.6%)	1,087,000 (△1.4%)	1,741,000 (△3.4%)
公立	721,600 (△7.7%)	1,586,200 (△9.8%)	2,307,800 (△9.1%)	721,600 (△7.7%)	1,586,200 (△9.8%)	2,307,800 (△9.1%)
私立	1,290,300 (△3.2%)	1,313,900 (0.7%)	2,604,200 (△1.3%)	1,290,300 (△3.2%)	1,313,900 (0.7%)	2,604,200 (△1.3%)
平均	960,700 (△8.7%)	1,212,800 (△1.8%)	2,173,500 (△5.0%)	960,700 (△8.7%)	1,212,800 (△1.8%)	2,173,500 (△5.0%)

(注) ( )は、平成30年度調査からの相対率である。